特70
107

穗積八束述

帝國憲法

031722-000-2

特70-107

帝国憲法

穗積　八束／述

［刊年不明］

BBE-0349

帝國憲法目次

第一編 公法
第一章 法及法人性質 一
第二章 公法ノ觀念 九
第三章 國家 一一
第四章 國体及政体 三
第五章 憲法 三
第二編 統治ノ主体 五
第一章 総論 五
第二章 皇位 六
第三章 皇位継承 七

以降裏表紙

法學博士 美濃部達吉 著

帝國憲法

第一編 總論

第一章 法

第一節 法ノ性質

法ノ觀念ニ關シテハ學者ノ間ニ種々ノ異ナリタル說アリテ未ダ一定セル定義ヲ與フルニ至ラズ然レドモ法ノ性質ヲ明ニスルガ爲メニハ此ノ問題ニ關シ法及ビ法ノ效力ノ大體ヲ理解スルヲ必要トス又凡テ事物ノ性質ヲ明ニスルガ爲メニハ各自取リ所ノ法ノ解釋ニ關スル學科ヲ研究スルヲ必要トス故ニ憲法及其他ノ國法ノ解釋ヲ說クニ前チ普通法ノ主旨ヲ說キ又此等ノ法ノ性質ヲ明カニスルガ爲メニハ先ヅ法ノ觀

ニ於ケル法及公法ノ何タルヲ解スル意味ニ於テ「事物ノ秩序ヲ意味スルヿ
ハ之ヲ観念ノ通常言語ニ於ケル前後相次ケルヿヲ言ヒ現ハス者
ニ現象ト伴ヒテ他ノ現象ヲ現ハスヿヲ起因スル現象ヲ現ハスヿヲ
ヒ故ニ物理ノ要求ニ於テモ人間社会ノ何ニ於テモ或ハ原因ニ伴ヒテ結
果ノ生ズルヿヲ其言語前後相次ケルヿヲ伴フ法則ヲ意味スルヿ
明瞭ニシテ人ヲ殺ス者ハ死刑ニ処スルト云フ事物ノ秩序ヲ言ヒ現ハス
ヿヲ以テ足ルトシテモ尚ホ下可ナシ夫然物理ノ要義ニ於テ原因
故ニ法ハ秩序ナリト解シテ「ケルゼン」ノ如ク原因ト結果トノ不可分ノ
ト結果トノ不可分ノ法則ヲ得サル必然ノ順序ヲ
例ヘハ刑法ノ法則ノ如キ人間社会上ノ法則ハ人ノ意思ヲ
以テ之ヲ定メ又人ノ意思ヲ以テ之ヲ変更シ得ヘキ人為ノ法ハ然ラ
ヲ得ヘキ限リニ非ラサルヲ得ス之ヲ要スルニ法則ハ人ノ社会的ノ生活ヲ成立

シ維持セラルヘキモノナレハナリ此点ニ於テ自然ノ法則ト人間社会的ノ法則トハ
別セラルヘキモノニアラス普通ノ詞トシテモ法トイフ詞カ物理界ノ現象ニモ人
間社会ノ現象ニモ共ニ用ヰラルヽハ法トイフ本来ノ観念カ権力ノ現象ト
然トシテ一定ノ順序ヲ以テ現ハルヽヿヲ言ヒ表ハスニ外ナラサルヿヲ
表ハス法ノ事物論理ニ於テ原ヲ言フニアルカ故ニ此ノ物理
ト従フルヿ
法ハ人生共同生活ノ秩序ナル人ノ生活ハ各人孤独ニ分離シテ其生命
ヲ全フシ得ヘキ者ニ非ス之ヲ必要トスルニ因リ共同生活ヲ為スニハ何ノ社会ニ於テモ時
代ニ於テモ事実ノ争フ可カラサル所ナル夫婦親子相親シテ家ヲ成スノ即
チ社会ノ初メナル社会的団体ノ形成及大サハ如何ニ種々ナル事実ニアルニモ
セヨ人ハ社会的生活ヲ営ム者ナルヿヲ言ヒ表ハスニ過キス既ニ数十年前ニアリストートルノ説
即チルカ如ク古今ヲ通シテ一般ニ通用スル人ハ社会的ノ生活ヲ為スヿヲ

即チ人ト人トノ間ニ植ヱラレタル干係ヲ保ツトイフ如キ同場所ニ偶然存在スルトイフ意味ニ非ズ相合シテノ用法的生活ヲ為スコトヲ意味スルヨリ夜会ニ於ケル人ト人トノ干係ヲ物同ニシテ家同体ヲ為スガ如キ社会ト云フモ皆同ニ此ニ於テ人ト人トノ干係ガ社会的組織ノ実質ヲ具フルヨリ此ヲ称シテ社会的法則ト云フ故ニ秩序ヲ人ノ社会的生活ノ規則ナリトスル人ノ社会的生存ヲ規律スルモノハ必ズシモ法則ニ限ラズ習慣ト雖モ亦之ヲ為シ得ベク又或ル唯一ノ不知不識ニ出デタル所ノ習慣トシテ行ハルルモノアリ必ズシモ人会始メテ社会ヲ為シ其秩序ヲ言モ現ハスモノヲ法則ト行為ヲ規律スル所ノ主ナルヨリ故ニ法

ナル称ヲ下セヨ已ニ数人会シテ共同生活ヲ為ス場合ニ於テ其手和秩序ヲ維持スル法則アルニ拘ラズ広ク此秩序ヲ維持スル規則ヲ云ハズ社会ノ発達ヲ遂ゲタルモノヲ法則ト云フハ如何ト云フニ社会ノ発達セル時代ニアリテ国法称スル権威ノ最モ重大ナルモノハ必ズシモ人ノ社会的生存ヲ規律スルモノニ非ズ或ル場合ニ於テハ社会的法則ヨリモ或ハ習慣トシテ行ハルルモノアリ必ズシモ人会始メテ社会ヲ為シタルモノヲ法則ト自然ノ道義ト称スル所ノ社会的法則ト自然ノ道義ト雖モ往々所ノ者ト雖モ故ニ我法律ハ社会ニ於ケル人ト人トノ干係ヲ保護シ秩序ヲ維持スル為メニ社会ノ実質ヲ具フルヨリ此ヲ称シテ社会的法則ト云フ故ニ秩序ヲ人ノ社会的生活ノ規則ナリトスル意味ニ非ズ何

ヤ

ヤ

ヤ

人が共同生活ヲ為シ平和ノ秩序ヲ保ツノ外ニ
リ所ノ基礎ナリト論ジ社会的
ノ理トシテ
我建ノ説明ニ所ト同ジカラス
トシテ処ヲスルヲ要セサルヤ
又宗ハ言ヲ要セス得手勝手カ自然法ト称スル法ハ同様ノ制度ニ
笠ヲ説明スルヤナリ並義ノ人ノ意思ヲ
自然法ト称シ法ハ神ノ法ナリト云フヤ是亦ノ
カ作ル者ナリト称シ自然法ハ
ヲ知ルヲ以テ宜敷シテ其不
社会ナル法トシテ観念ヲ異
痕ノ見解ナリテ発生ヲ
法ハ何ナル説明ハ概略前
言ヲサシ法ハ如何ニ成リ
三個ノ法ノ性質ヲ明ニシ
痕ノ説ハ今茲ニ
ノ事ヲ要ス説明ニルナリ
論ジテ社会ノ有様ニ就テ言ヘハ
味ニ誤解シテ社会ヲ各個人カ
如キ機械的ノ観念ニ
ヨウ意味ナル社会ナルハ法ハ
人ト人トノ間ニ交通ヲナシ法ナシ
人カ人ニ対スル孫ヲ見
法律ノ大家サビニー

ノ発達ニ応ジテ社会ニ適応スル国語ヲ作リ出スノ力ヲ有スルモノデアル人ハ決シテ個人孤独ノ生活ヲ為スノデハナイカラ其言語ハ発明トカ約束トカ云フヨウナ人為的ノモノデハナクシテ社会其者カ言語ヲ作リ出スノデアル其ノ証拠ニハ言語ハ発明セラレタリ約束セラレタリスルノデハナクシテ社会ノ発展ニ伴ヒ自然ニ変遷スルノデアル又形式ノ如キモ社会ノ法則ニ従ヒ自然ニ成立スルモノデアル而シテ言語モ人間天賦ノ言語ト社会ノ作リ出シタルモノトガアルト云ヒ議論ガアルケレドモ人間天賦ノ言語ト云フモノハ無イ言語ハ社会ノ発展ト共ニ変化スルモノデアル

法カ何カ為メニ存在スルカト云ヘバ普通ノ説明ヲ聞クニ社会ノ秩序ヲ保ツ為メニ存在スルト云フ様ニ考ヘテ居ルガ之ハ横ヲ見ルノデアル法ハ社会ニ依リテ成リ社会ノ為ニ存在スルヨリモ寧ロ法其自身カ目的ヲ有ツテ居ルト云フ様ニ見ルノガ正当デアル法ハ社会ノ為メニ存在スルヨリモ寧ロ社会ガ法ノ為メニ存在スルト云フ方ガ適当デアル即チ法ハ何ンニモ人ト社会的ノ生存ヲ救フ為メニ

社会ノ為ニ其団体ガ維持セラレ永ク生存スルガ為メニハ其社会ノ分子ガ法ニ依リテ動クヨウニ必要条件ヲ示スモノデアル社会的生存ヲ全ウスルガ為メニ手段トシテ法ハ其団生活ニ必要ナ条件ヲ示スモノデアル社会ノ分子ガ之ニ依リテ行ヒ其社会ノ秩序ヲ破リ滅亡ニ陥ラヌヤウニスルノデアル法ハ其社会ノ秩序ヲ破リ滅亡ニ陥ラヌヤウニスルノデアル法ハ社会生存ノ為ニ必要ナ条件ヲ示スモノデアル社会生存ノ為ニ必要ナ条件ヲ示スモノデアルカラ法ハ社会ノ生存ノ条件デアルト云フ事ハ出来ル

団体ヲ作テ個人孤独ノ生活ヲ好ム社会ト云フ観念ハ誰モ頭ノ中ニ起ス事ハ出来ナイ社会ハ人ト人トノ関係ヲ通ジテ永遠ニ亘ル団体ノ生存ヲ目的トシテ永遠ニ延長スルヲ理想トスル団体ノ生存ヲ目的トシテ永遠ニ生存スル社会ノ分子ハ社会ノ為メニ生存ヲ目的トシテ生活シ又社会ノ為メニ生存ヲ目的トシテ死ヌルノデアル

社会ノ生存ノ為ニ団体ノ生命ヲ永遠ニ維持スルノ目的ヲ
以テ
後者法ノ目的ヲ説明スル普通説中特ニ久ヲ説明スル
私ノ目的ヲ達スル為メノ通具タリトナス説ニシテ普通的ニ説明スル
ニ過ギス法ノ本位トハ法ノ生ミ目的ノ存スル所ニシテ法ノ何カ為メニ
在ルカヲ主格ヲ言ヒタリ
個人本意ノ法理論ニシテハ法ハ今入ノ手ヲ借リテ其ノ不便ヲ除キ
説明スル為ニ個人カ独立シテ生活ヲナスニ必要ナル各個人ノ便宜ノ為メニ社
会ヲ成スナリ社会カ主ニ目的ニシテ此ニ
テルヲリ人ハ社会ノ一分子トシテ存在スルニ過ギス社会カ個人ノ通具機械トシテ
存在スルヨリ寧ロ個人孤独ノ利益ヲ完ウスル為メニ存在スルモノナリト説

クナリト見解ハ前段ニ述ヘタル所ト正ニ対蹠ヲナス
論ヲ倫理通徳経済ノ議論ニ於テハ社会ヲ主トスル見解ト相反スルモ此両者ハ今茲ニ容易ニ断言スル能
ハス
五 倫理論ハ近来ノ発生ニシテ最モ法ノ性質ヲ各般ノ事
項ニ通シテ普徧ニ説明ヲ為スニ適スルノ説ナリト信ス即
法ハ社会的生活ニシテ社会ヲ維持スルカ為メニ個人カ社会ノ分子ト
シテ法ニ依リテ得ル所ノ生活ヲ完全ニ永久ニ普及セシム
ル為メニ団体生活ヲ完ウスル為メニ各個人ノ不利益不便ナルヲ法ヲ以テ強
制スルニ過キス即チ個人ノ本位ノ法理論ヲ改テ説明スレハ法ハ必
要ナル社会ニ法ノ必要ヨリ即チ数多ノ人物ノ利益又ハ権利ノ
衝突ヲ防ク為メニ法ヲ必要トスルニ

前ニ示シタル如ク法ノ世界ニ於ケル論議トシテハ法ハ目的ヲ設定シテ手段ヲ施スヲ以テ社会ノ為メニ存在スルモノニシテ人ノ為メニ存在スルニ非ズト云ヒ法ノ為メニ人ガ存在スルモノニシテ人ハ法ノ為メニ存在スルニ非ズト述ベタル社会学上ノ若ハ仏人ヲ本位トスル法ノ観念ハ其説明如何ヲ問ハズ其ノ通其ノ天然法ノ観念ニ於テハ根本ヲ異ニシテ亜又対立シテ人ノ為メニ法アルヲ以テ神ノ意思ヲ解釈スルヲ以テ唯一ノ標準ト為シ法ハ前ニ言ヒタルガ如ク已ニ神ノ意思ヲ説明スルヲ以テ其ノ厳格ナル主張ハ人文ヲ無視シ人事ヲ除外シテ之ヲ論ジ甚ダ事実ニ遠ザカルヲ以テ法ハ社会ノ秩序ヲ乱ルモノニシテ自然ノ法即チ神ノ命令ニ違背スル者ハ刑罰ヲ以テ臨ムベシト云フ説ヨリ我輩ノ法ハ社会ノ権力ニヨリテ行ハルヽ所ノ法ナリト解釈スルヲ以テ倫理道徳ノ観念ノ上ニ立脚スル法ト倫理道徳ノ関係ハ如何ト云フ疑問ヲ生ズルヤモ知レザルモ我輩ハ法ハ社会ノ秩序ヲ維持スルガ為メニ存在スルモノニシテ社会ハ其ノ秩序ヲ維持スル為メニ倫理道徳ヲ必要トスルヲ以テ法ハ倫理道徳ヲ基礎トシテ之ヲ強行スルモノニシテ法ハ倫理道徳ヲ強行スルニ当リテ社会ノ権力ヲ利用スルモノナリト解釈スルヲ以テ法ハ倫理道徳ノ一部ヲ成スモノニシテ倫理道徳ハ法ノ基礎ヲ為スモノナリト云フ説ニ賛成スルモノナリ

法ハ社会ノ権力ヲ以テ強行

権ノトキニ我侭乱暴ヲ働ラキ他人ノ権利ヲ侵害シ故ニ平和ヲ破リ秩序ヲ紊ス法律ニ違ヒタル者ト認メラレ又ハ違ヒタリト思ヒ込マレタル場合ニ権力ヲ行ヒ又ハ行ハントスル意思ヲ以テ権力ヲ発動スルコトヲ意味スルモノニシテ其権力ハ強キ者カ強キ者ノ力ニ依頼シテ社会ノ秩序ヲ保護スル主権ヲ以テ其ノ権力ヲ行フトキハ其権力ハ社会ノ秩序ヲ保護スル主権ノ外ニ権力ヲ行フ者ノ権力ヲ以テ社会ノ秩序ヲ保護スルノ意味ニ外ナラス「国ニ主権アリ」国ニ主権アリトハ法律ニ依リテ行ハルル権力ニ依リテ維持セラルル国ノ主権カ主トシテ公明正大ニシテ然カモ厳粛ニ新ノ規則ヲ普通ニ施行スルコトヲ謂フモノニシテ権力トハ観念ノ意ニ外ナラス観念ハ各人ノ脳裏ニ存スルモノニシテ其ノ観念ノ如キ意味ヲ有スルヤハ権力ノ作用ヲ見テ知ルヘキモノナリ

ハ又意味ヲ有セサル社会的組織ヲ為スヘカラサルノ必要ヨリ権力ヲ発スルモノニシテ権力ハ強者ノ手ヲ経テ弱者ノ手ニ渡ルヘキモノニアラス又想像ヲ以テ見ルトキハ個人平等ナル者ノ手ヲ経テモ又ハ団体ノ手ヲ経テモ通理ニ於テモ権力ナルモノハ社会ヲ維持スルノ為メニ社会ノ秩序ヲ為スヘキ義ヲ止ムヲ得サル場合ニ於テ団体ヲ為スヘキ義ノ人カ互ニ相争フヲ防キ社会ノ秩序ヲ維持スルノ意味ニシテ生命アルモノヲ意味スルモノニアラス団体ハ維持セラルルヲ以テ生命アルモノノ如ク意味スルニ過キサルモ強キ者カ弱キ者ヲ圧制スルトキハ弱キ者ハ団体ヲ組織シ人カ団体ヲナセル其間ニ必ス負ケ力平和ヲ破リ秩序ヲ紊ス意味ニ外ナラス強キ者カ権力ヲ恣ニシテ暴力ヲ恣ニシテ弱キ者ヲ圧制スルカ如キハ権力ヲ恣ニシテ故ニ秩序ヲ維持スルカ為メニハ団体ノ分子カ相戦ヒテモ秩序ヲ維持スルカ為メニハ団体ノ主権ヲ認メ最高ノ力ヲ以テ強テ分子ヲ圧制スルモノヲ要スルナリ社会的公ノ力即チ国家社会ノ主権アルカ為メニ団体カ維持セラルルヨリ国家ヲ家長権ト云ヒ国ニ主権アリト云ヒ又社会的

公権力ト認メラレ依ッテ社会ノ平和ヲ維持セラレ善キ越シ強力ハ人ノ社会的実在ニ要件ニシテ尊重セラレ善キモノトセラレ法ハ此方ニヨッテ維持セラレ所、規則ナリ

階級ニ基ク公法ノ観念

前ニ言ヘル如ク公法ハ大体ノ観念ヲ表ス言葉ニシテ国家ノ組合ヲ指シ或ハ之ヲ取リ扱フ処ノ組織ヲ云フ故ニ公法ハ如何ナル性質ヲ有スルヤヲ研究スルニ当リ階級ヲ以テ観察スル公法ト私法トヲ区別スル学者アリ

階級ノ異ナル毎ニ公法ノ観念ハ異ナルヲ以テ同一国内ニ行ハルル法律ニシテ階級ノ異ナル毎ニ公法ト私法トヲ区別スルハ不当ナリ法ハ一ツニシテ二ツニ分ルヘキモノニアラス

則チ便宜上之ヲ区別スルモ私法トシテ二者絶対的ニ別物トシテ存在スル訳ニハ行カス

前ニ示セル法ノ性質ヨリ公法私法ヲ論ゼス法ハ皆ノ性質ヲ述ベタルガ如ク相互別ヲ付キ通常ノ教科書ニ於テハ公法私法ノ定義並ニ之ヲ明ニセントテ種種ノ説ヲ掲ケ公法トハ「国家ノ生存ニ関スル法律ヲ云フ」トカ「国家ノ権力ニ関スル法律ヲ云フ」トカ「国家ト人民トノ関係ヲ規定スル法律ヲ云フ」トカ種種ノ説ヲ解シ又私法ト特ニ定義ヲ下サズ単ニ「公法ト私法トヲ区別スルニ国ノ法律ニシテ国家又ハ国ノ機関ガ公的ノ手段ヲ以テ社会的ノ手段ヲ規定スルモノヲ公法トシ私人ノ相互ノ関係ヲ規定スルモノヲ私法トスルモノアリ又公法ハ国家ト人民トノ関係ヲ規定スルモノニシテ私人ノ相互ノ関係ヲ規定スルモノヲ私法トスルモノアリ又公法ハ国家ノ生存ニ関スル法律ニシテ私法ハ国家ノ生存ニ関セサル法律ヲ云フ」トカ種種ノ説ヲ掲ケ公法ハ国家ノ権力ニ関スル法律ニシテ私法ハ国家ノ権力ニ関セサル法律ヲ云フ」トカ種種ノ説ヲ掲ケ公法ハ国家ト人民トノ関係ヲ規定スルモノニシテ私法ハ人民ノ相互ノ関係ヲ規定スルモノヲ云フ」トカ種種ノ説ヲ掲ケ公法ハ国家ノ生存ニ関スル法律ニシテ私法ハ国家ノ生存

デキルコト即チ民政的政体ナリ民政的政体ノ性質トシテ国家政府組織ハ法ヲ制スル事権限ヲ規定スル必要ヨリ君主専政ノ政体ニ於テハ君主一人ノ設ケル処ナリ即チ国ノ法ヲ以テ唯人民カ守ルベキ規則ヲ定ムルノ政体ナリ

又民政ノ国ニハ多数ノ人国ノ政治ヲ行フ故ニ政権ノ行使及官府ノ権限ヲ法則ヲ以テ厳然ト定ムルヲ要ス国ノ基本法ノ制度上ニ権衡ヲ存セシメテ特殊ナル性質アルカ故ニ普通民政ノ国ニ適用セラルル者ニ非ルカ如シ

又カトラルナリ

ル欧洲ノ法律ノ系統ハ分チテ羅馬法トゲルマン法トノ二トナル今ゲルマン法ノ沿革ヲ就テ云ハハ羅馬法ハ紀元ヨリ大ニ古ク羅馬人種ニ始リ欧洲ニ到ル国ヲ征服シ人民ヲ滅亡セシメゲルマン人ハ其法律ヲ採用セシメ征服セラレタル人民ハ今モ普通ノ人ト社会的支配ヲ受ケ国家ノ憲法ハ国ノ性質ヲ示スカ故ニ其国ヲ支配スル憲法ハ他国ニ移シテ用ユヘカラサル独リ私法的ノ規則ニ至リテハ民人間ノ経済的生活ノ規則ナルカ故ニ外国ノ法律ヲ適用セラルルヲ得ヘシ憲法ハ国家的ノ者ニシテ私法ハ稍々異性的性質アルカ故ニ歴史ヲ異ニシ人種ヲ異ニスルニ人ハ羅馬ノ民法ノ法理ヲ転入シタル羅馬ノ憲法ヲ継受シテ国ノ特質ヲ保ツ英国ノ如シ国ノ法律ハ沿革ヲ同フシ現今ノ政治性質ヲ同フスル者ニ非ルヲ見ニ新ニシテ又斯リアルヘキ道理ナリ兵諸君ハ須ラク政治性質ノ法律ヲ

例ニ依リ萬法ヲ設ケ自再三義人集リ法律ヲ議釈シ施行シ又ハ廃止スルカ如キ権限ヲ有シ法律ハ民法ノ如キ始モ普通ノ関係ニ止マリ産物ノ輸出入ニ付キ好国ヨリ特用シ得キ者ト誤解セラルヽモアラン又仏国ニ歴来ヲ知ル人ハ仏国ヲ以テ自再三義ト為シ独逸ト云ヒ普国ト云ヒ人種ノ同シカラサルヲ顧ミス又之ニ怪シカラス迄モ我国ヲ以テ欧州各国ト為ス者アルハ実ニ甚タ誤解ノ甚キモノト陳述シ置ケリ故ニ行ハレヌ

猶同意ヲ有スル旨ヲ答ヘテ会議ヲ大同ヲ成シ終レリ

其ノ後チ民法ノ後ハ更ニ部落ヲ独立スル者タリ本ヨリ法則ヲ就テ公法私法ノ区別ヲ設ケ制度ヲ極メテ簡易ナル者ヲ以テ就テモ只禅先傳来観念ヨリ起ル迄モノ丸テ同ジカラス又同ジカラサル人民ヲ支配スルニ就テモ又同ジカラス

其後チ法則制定セラルヽヤ又ハ公布セラルヽヤ又ハ其後ニ於テ法律ノ或ル者多ク存在スル時ハ法典ヲ以テ之ヲ廃止スルヲ以テ原則トス

ゲルナル者ハ民法ノ後ニ於テ残リテ有ラユル所謂歴史ヲ見テモ始メハ公者主及政府ノ権限ノ規定ニ止マリシカ又ハ人民ノ刑罰ニモアラス或ハ人民ノ自異后ヲ以テ法トスルノ考ヲ以テ公法私法ノ観念ハ既ニ古ク別ニ考ヲ異ニスルニ非ス

ヲ以テ公

ノ公ノ傾ク処先ツ普通ノ議論ニ依テ現ル
リ即チ個ノボーダーレス」ト称スル主権論是ナリ
主権ナルモノハ力ノ上ニアル絶対ノ主
人民或ハ君主カ仕入ト干係ナク無限ニシテ
ニシテ主権論ト対立スル主権論ハ先ツ打破ラレ
歴史ノ示ス所ニ依リテモ明カナリ
主権論ハ即チ主権論ノ元ヨリ欧州普通ノ法律論ノ
発生ニ依リテ主権論起リシナリ我国ニ勃生論ノ国ノ数十年ノ沿革
ニ顧ミテモ主権論ノ先ツ普通ノ用ヒ行ハレ遂ニ数
ヲノ制度トナリ諸侯ノ地ヲ失ヒ主権ノ制度ニ於テ大同ヲ推
セシニ至リシ歴史ノ如キ即チ国ノ政体政権行動
規定ヲ破リ制定セラレシハ即チ民法欧州殆ン

ト全ク同一ノ時代ヲ経テ発生シ
時代ニ依リ殊ニ強行法歴史ノ国則トシテ国ノ政体ヲ民政ニ
変ゼシ公法私法ノ制度ヲ必要トスル
体ノ法ニシテ未ダ公法ノ観念公法的ノ秩序カ
ル迄未ダ公法ノ研究カ我ニ長足ノ進歩ヲ
独逸ノ「ワイツ」ノ法律其後ノ二人ノ外
日耳曼ノ二ハ止リ其ノ公法私法ヲ論シ
理論的ニ公法私法ノ両面ヲ区別シ法ニ公私両面アルヨリ公
公法私法ノ種類ヲ論ジ私法ニ於テハ権利ヲ保護スル法ニ社会ノ
法ニシテ社会ヲ規律スル法ニ於テハ権利ヲ保護スル法ニ社会ノ
秩序ヲ維持スル規則ナリトスル意味ニ
ナリヤ何ノ種類ニテ各国独リ存在シ得ル者ト認ム可キ其相干係

孤立ニ社会並ニ個人ノ性質ヨリ来ルモノナリ
凡ソ人ハ団体ヲ為ス事ヲ必ス二種ノ手段ニ依テ団体ヲ成
序ヲ全フシ個人相互ノ間ニ於ケル権利義務ヲ保護シテ社会ヲ成立スル者ニモ個人相互ノ手段ニ依テ団体ト個人トノ手段ニ依テ団
ニ於ケル唯各人カ機械的ニ其本ノ土地ニアルカ如ク適セサルヲ以テ団
体ヲ形成セサルヨリ又団体トシテ各人カ相集リテ組合
体ヲ為ス訳ニ非ス山ヲ為スヨリ山ヲ為スト云フカ如キ之ニ類スル個人カ個人
ノ生命ヲ有スル之ト同時ニ物質ノ集リテ団体ノ生命ヲ為スヨリ故ニ人間社
会ノ有様カ社会団体トシテノ生活上ニ個人カ個人トシテノ生活ト二種ノ
生活力アリテ社会国家カヲ為スヨリ社会的ノ生命ト云フ事ヲ
又個ニヲ以テ個人ノ生活上ヨリ説明スレハ人ハ孤独ニ生存ヲ
ス事ニ非ルヨリ一部分ノ住民ヨリ又一個ノ人民ヨリ個人

孤独ノ生存ヲ好マス社会的団体ノ分子トシテノ生存ヲ
有スル自主ノ生活ヲ以テ同時ニ又家族ヲ国民ヨリ団体ノ分子トシテ
ノ境遇アリ之ヲ個人ノ生活ト云フ事ヲ
人ノ生活ニ於テ又社会生存ニ於テ何ノ点ヨリ観察スルモ人ノ社会的
生存ヲ右説明スルカ如ク二様ノ方面アルヲ以テ法ヲ公私ノ二門ニ分ケ
所以ヨリ法ハ人ノ社会的生存ニ関スル事ヲ規則スル故ニ此両面ノ手段ヲ
社会的ニ分カチ個人的ニ自主ノ生活ノ方面ヲ規定スル私法ト
法則カ故ニ法ハ此手段ヲ合セテ規定スルヨリ必ス或
手段ヲ規定スル又或ル規則ハ人カ国家ノ分子トシテ
ル集リテ法ト云フ全体ヲ組織スル形成ス

右説明ノ如ク公法私法ノ区別カ人社会的生活ニ伴フ区別ナルヲ其根拠
ル所ヨリ来ルヲ以テ尚ホ進ンテ従来ノ学者公法私法ノ定義ヲ検ス

生ずる者と就て此評を加ふ又我輩の見る所を述べん
公法私法の区別を言義に於て公法は公益の規定なり私法は私益の規定なりと
説明する者は最も多く且つ広く行はるゝ者の如し然れども此定義も亦た満足
為し難き観念なりと雖も公益私益と云ふ詞は即ち公私の区別に着目して
然る観念なりと雖も公益私益と云ふ詞は即ち公私の区別に着目して
設けたる規定なりと云ふ時は公益私益の区別は何ぞやと云ふ問題に移らざる
を得ず之も明瞭ならず
公私の区別は何ぞやとの問題は解釈如何に依りて公法は私法なり私法は公法
なりと云ふ説を生ずるに至る加之公私の区別を言義に於ても説明を異にし
詞は公私の区別を所以が此定義と同一趣旨の説明を下すに至る
或種類の権利は公法私法の区別を人により異にし
規定は私法なり他人の同一の事柄に関する規定は公法なりと云ふ如き
公私の区別は何ぞやとの問題を解釈せんと試みたる者少なからず然れども
此問題を解釈せんと試みたる者少なからず然れども此

考ふるに個人相互の手続上きつ請
一家の母と主人下女との関係に於ても人の牛馬を取
扱ふが如き権力ありしこと国家の人民に対しても
曾つて差ありしこと人格権の全く異なりし時代もありしまた
監督と請求を受けてこれを拒むことを得ざる点に
於ては親若くは戸主が其家族に対しても拒むを
得ざる時代もあり社会の有様必ずしも
常に一ならず同等なる所の分子が相集りて
実人間の社会を成すという理論的の有様ハ
これを追求せざる故に普通の道理論としては普ねく欲
ハ私法なりという論を同等の人と人との手続
是迄地の人民との手続を主人と奴隷との手続又同等
の人間の手続も皆一様に私法の類則を適用
せんとするハ甚だ当を得ざるの憾あり

同じく此説をなす者も亦さきに所謂の故に個人相互の手続をきつ詞ハ
取の度質すことと我公法ことに精密ならざるの手続を
取るべきハ人との間に於ける手並の
明なるべし

又此類の推定者ハ公法ハ国家と個人との
此定義も又大体の要領を得ざるを免れず公法私法の精神を説明せんとして
国家と個人との手続ハ何が故に人と人との
示さざることを国家と個人との手続が公法なりと
ハ権力服従の手続なりと個人が個人に対して人民各々
於て権力者ハ服従者なりと認めざる可からず
責任ある者ことで服従せんとするハ権力を
有せざる人が人に対して請求せんとするハ得べからざる
有せざる人が人に対して請求せんとするハ得べからざる

権利ヲ認メサル件ハ裁判所ニ訴ヘテモ判所ノ権力ヲ以テ社会ノ秩序ヲ正スニ何人カ相互ニ権力ヲ以テ私ニ制裁ヲ加ヘルヲ許サス只国家若クハ国家ノ委托ヲ受ケタル団体ノ公ノ力カ人ニ命令シ服従セシムル力アルニ止マリ何人ト雖モ何人ト雖モ其ノ意ニ反シテ公法ノ権力ヲ以テ其ノ義務ヲ履行セシムル故ニ我邦事ニ公法ノ定義トシテ公法ハ権力ヲ以テ人ニ事ヲ強ヒ又ハ権力ヲ以テ人ノ事ヲ禁スル法ト云ヒ私法ハ権力ヲ以テ人ニ事ヲ強ヒ又ハ禁スル法ニ非ス私法ハ社会ノ秩序ヲ維持スル為メ人民カ共同団体ヲ立テ又ハ其ノ団体ニ加入シ又ハ個人ト個人トノ間ニ権利義務ヲ設定スル為メニ設ケタル法ニシテ其ノ内容ハ権力ヲ以テ強ヒ又ハ禁スルモノニ非ス唯タ社会ノ秩序ヲ維持スル為メ人民カ共同団体ヲ立テ又ハ其ノ団体ニ加入シ又ハ個人ト個人トノ間ニ権利義務ヲ設定スルニ当リ其ノ意思ヲ表示スルノ方法ヲ定メタルニ過キス例ヘハ婚姻ヲ為スニ当リ戸籍吏ニ届出ヲ為スヘキコトヲ定メタルカ如キ是レ唯タ婚姻ヲ為スニ当リ其ノ意思ヲ表示スルノ方法ヲ定メタルニ過キス婚姻ヲ為スノ意思ヲ有スル者カ戸籍吏ニ届出ヲ為サヽルモ婚姻ハ有効ニ成立スルカ如シ又遺言ヲ為スニ当リ遺言ノ方式ヲ定メタルカ如キ是レ唯タ遺言ヲ為スニ当リ其ノ意思ヲ表示スルノ方法ヲ定メタルニ過キス遺言ヲ為スノ意思ヲ有スル者カ遺言ノ方式ヲ履行セサルモ遺言ハ有効ニ成立スルカ如シ故ニ私法ハ権力ヲ以テ人ニ事ヲ強ヒ又ハ禁スル法ニ非ス唯タ社会ノ秩序ヲ維持スル為メ人民カ共同団体ヲ立テ又ハ其ノ団体ニ加入シ又ハ個人ト個人トノ間ニ権利義務ヲ設定スルニ当リ其ノ意思ヲ表示スルノ方法ヲ定メタルニ過キス

又或ハ親族ヲ設ケ私法ヲ以テ之ヲ救護シ又ハ其ノ財産ヲ管理スル如キ是レ即チ夫ノ個人ノ自然ノ人格ヲ認メ然ル後ニ憲法ノ法理ヲ以テ之ヲ解セサルヲ得ス

第三章　國家

憲法ハ國權ノ働キヲ大原則ヲ掲ケ之ヲ國家ト名付ケ其ノ法、國家ノ法理ヲ說明スルモノトス

國法ハ國家ヲ以テ歷史上政治上觀察シテ國家ト名付ケ其ノ法、國家ノ法理ヲ說明スルモノトス

國家ハ國權ノ主體ナリ又法理上國家ハ觀念ノ國體ナリ又法理上國家ハ觀念ノ國權ノ主體ナル無形ノ性質ヲ有スル恰モ人ノ觀念ノ或ル肉體ノ自然ノ人ノ身體ヲ指シ法理上ノ觀察トシテ權利ノ主體タル無形ノ人格ヲ意味シ此ノ者ヲ國家ト稱ヤ又國ヲ以テ法律ノ範圍ノ區域ト純然タル法理論ノ範圍ヲ指シ恰モ人ノ肉體精神ノ研究カ民法私法ノ研究ト非サルカ如ク公法ノ學問トシテ人格ヲ意味スル者ト國家ノ範圍ノ區域ト純然タル法理論ノ範圍ヲ指シ恰モ人ノ肉體ノ自然ノ人ノ身體ヲ指シ法理上ノ觀念ヲ以テ例セハ國家ハ抽象的ノ觀念ヲ以テ例セハ國家ハ抽象的ノ觀念ヲ以テ例セハ國家ハ抽象的

ルナラン仍テ何ナル事実ヲ以テ国家即チ主権ノ存在ヲ認メントスルカ曰ク土地人民及主権ヲ有スルヲ以テ故ニ国家ト名ク蓋シ Jellinek ノ如キ亦タ概ネ此観念ニ相違アルニ非ス但彼ノ観念ニ於テハ私法ノ観念ニ出テ人ヲ権利ノ主体ト為シ土地ヲ以テ人ノ自然人ヲ支配スル作用ノ目的ト見做シ国家ヲ以テ土地ノ上ニ行ハルル権利ノ主体ト為シ土地ヲ以テ国家ノ客体ト為スノ点ニ於テハ余輩ノ観念ト大ニ異ナル所アリ余輩ハ国家ヲ以テ団体ノ一種ト為シ土地ヲ以テ団体ノ基礎ト為シ人ヲ以テ団体ノ要素ト為スノ点ニ於テハ Gierke 等ノ観念ニ一致スルモノナリ

Roesler 曰ク国家ハ土地ヲ自己ノ領土トシテ有スル団体ナリト雖モ其人ノ如キ亦タ何ノ点ニ於テ国家ト団体トヲ区別スルヤヲ明カニセス又 Gierke 曰ク国家ハ団体ナリト雖モ其団体ハ人ヲ以テ基礎ト為シ土地ヲ以テ団体ノ基礎ト為サス又 Laband 曰ク国家ハ団体ナリト雖モ其団体ハ人ヲ以テ団体ノ要素ト為シ土地ヲ以テ団体ノ要素ト為サス又 Jellinek 曰ク国家ハ団体ナリト雖モ其団体ハ人ヲ以テ団体ノ要素ト為シ土地ヲ以テ団体ノ要素

そう観念そのもの又領土の生ずる其國の領土に見做す観念そのもの又戰爭そう結果に依りて領土の増減を来すことは戰爭の前長き人又武力強き人が多數の人の上に主たる主權者として權力を行ふとゝゝ人ノ土地が一定の主權と服從するの國、領土變更をなす原因と生ずるに至る

又支那古の國家の觀念若くは羅馬の盛大なる時代に於ける國家主權の觀念が各其一定の生ずる有さん人を以て世界の主なる觀念なり即ち我が有さん非ざる天ノ下ヲ治ムル諸ゆる土地も我が主權の及ぶ所なりと認めたり天ニ二日ナキカ如ク地ニ二王ナシとゝゝ天子の同等なる者主權ゝゝ

ゝ民族ゝ於ても亦我が國の如き主權の生ずる觀念の發生を見ざりしゝ定ゝ地が我國の如き處我主權の生ずるに至りたる處は羅馬盛強の時代なりき此觀念の發生を見ざりしゝ定ゝ

又徴サルヽヿリ

國家ゝ古の觀念ハ國ト國トの相對峙ゝゝ民族の雜處ゝゝ國ト國トの間ニ於テ國家ゝゝ觀念の發生を見ざりしゝ定ゝ

殺害海賊ゝ羅馬ゝ如キ國家が最も發生を見ざりしゝ定ゝ

羅馬ゝ國家が最も發生を見ざりしゝ定ゝ

犯最も發達せりき偶然ゝ非ず土壌氣候ゝ如キ自然ゝ影響ゝ外ゝ社會組織の堅固ゝヿリ且諸國犯對ゝ結束ゝ強キ其組織の堅固ゝヿリ且諸國犯對

時ゝヿ大ゝ權衡ゝ發達ゝ我國ゝ如キ國家論ゝ改ヿ萬世一傳ゝ

犯最も發達せり彼ゝ世界者アリゝトハ立下國家論ゝ改ヿ萬世一傳ゝ

ル所以ナリ
羅馬人統一セル國ヲ其大國ヲ支配シ得タル制度ヲ採リ之ヲ統治シ得タル觀念カ其著ク發達シ其版圖ヲ擴張シ國家論盛ニ行ハレタル時代ニ於テモ其版圖ヲ固守スル觀念ノ最モ盛ニシテ國家論ノ有名ナル學士ノ如キ世カ宣家族諸侯春秋ノ列國乱世ノ時代ナリ諸侯ヲ保ツテ覇ヲ唱ヘントスル人民ノ如キ全ク我國土ヲ以テ國ノ成立ニ必須ノ有機體ト見ル可キナリ
亘ノ相爭フ其ニ於テ國ヲ人民ノ如キ全ク我國土ヲ以テ國ノ成立ニ必須ノ有機體ト見ル可キナリ
支那ノ後世ニ於テ法律制度カ大ヒニ發達シ最モ精ク發達シタル時代ニ於テモ國家論ノ周ク論ゼラレサリシハ固ヨリ盛ナル割拠ノ乱世ノ時ニ盛ナリシニ拘ラス又一方ニ於テ國土ヲ自己ノ所有物ト見做シ國ヲ以テ君主ノ私有ニ屬スルノ觀念ヲ生シ君主ノ國ヲ以テ子孫ニ傳フルヲ以テ當然ノ事ト爲シ國ヲ以テ君主ノ所

ヵ国ヲ次ニ述ブル観念ヲ以テ欧ノ本来ノ封建時代ニ於ケル国主ヲ基礎
ト見ル観念ト異ナル所ヲ解スルニ
国家ノ多数ノ人ヨリ共同団体ヲ今日論セズシテ同ジク国民ヲ
以テ成ル団体ヨリ即チ一個ニ入数ノ多キ土地ノ狭ク同家ノ観念ヲ手
伝セズ同家ノ如キ即チ独立ノ個家ノ性質ヲ有シテ存在スル人ノ団体ヨリト
キハ個人孤独ノ生活ニ反対シテ義ニシテ必ズモ数ノ人ヲ意味スル
ニ非ズ又多数ノ人カ同一場所ニ生存シテ共同団体ヲナシ之ヲ国基
礎トナス共同団体ハ個人全体ノ子トシテ個人独立ノ生命ヲ以テ
個的生活ヲ有シ団体ヲ自己独立ノ生命ヲ以テ存在シテトキヲ称シ的
ノ観念ニ非ス共同団体ヲ為ス所以ハ結局普的ニ種ノ有様アリヌヨリ論ジテ社会普ノ普利ニ偏ニ通情
ノ性質ニ依リテ見テハ社会ノ原始ヨリ有様ニ基ヒ血統団体カ最モ古ク子孫
ハ父母ノ保護ヲ下ニ共同団体ノ形ヲナシ血統ノ同シキモノヲ血統団
体ヲナスカ如シト雖モ其父母又父母ヲ崇拝スル念ハ祖先ヲ同フ
スル主ヨリ血統的社会即チ民族団体ヲ推シテ父母又父母ヲ及ホス祖先ヲ同フ
先ヲ同フスルニ血統団体ノ強盛ナルハ人種同キハ即チ祖
孫カ屋敷モ亦ノ生ヲ今日ニ及ヒ迄其
勢力ヲ同家社会ヨリ遠ク東洋ニテモ西洋ニテモ実ニテ現在ヲ
人ノ見ル所ニ或ハ普ハ血統団体ヲ好ク純粋ナル共和団体アルカ如ク説明
セリ個人孤独ノ独立ノ人カ如ク社会ノ生活ヲ
サヽタル者カ相合セテ団体ヲ成セル場合ノートキニ独逸ノ
普通者ノ名付ケテ手形ノ団体ト云ヒ又ハ
セラルヽ事ニ又天然ノ頑向ヲトシテ説明スル同家普通ノ家族制
トシテ見ル普ハ純粋ナル共和団体ニ非ス家族制
ノ独乱団ノ変ヲ見ルニハ多クハ純粋ナル共和団体ニ非ス家族制
ノ独乱団ノ変ヲ見ルニハ多クハ純粋ナル共和団体ニ非ス家族制

ノ社会的組織ヲ支配シタルモノ

此種ノ論ハボルシェヰキノ学者ノ間ニ盛ンニ行ハレ
サリキ而シテ吾カ國家ノ観念ニ於テ最モ相先ヨリ近キ者カ国体ノ成立ヲ
説明シ延イテ国体ノ主タル力ヲ有スル家長即チ父母ヲ尊ヒ祖先ヲ崇ムル
ノ念慮カ又国体ノ主タル力ヲ有スル家族制度ヨリ欧洲人種及日本人種ニ
共通ナル生存ノ競争ニ勝チ国体ヲ維持スルノ観念ヨリ欧洲十七八世紀ノ社会説ハ
孰レモ国家ノ観念ヲ誤リ国体ノ本義ヲ没却シ国体ノ主権ヲ国家ノ主権ト
混淆シ国体ノ主権ヲ以テ国家ノ主権ト為シ国体ノ主権ヲ以テ国家ノ主権
ト為スニ至リテハ国体ノ本義ヲ没却シ国体ノ主権ヲ以テ国家ノ主権ト為

即チ子ハ生ヲ享ケ絶対ニ幸福ナル人カ団体ニテ同ヨリ
スルトキハ独家ヲ脱シ共同団体トナル力アリテ即チ団体ノ分権力
アリテ団体的生存ヲ故ニ家ニテ家長ノ権力ヲ服従スルヲ故ニ家ニテ家
家ヨリ国ニテ主権ヲ服従スルヲ同ク場所ニ存在スルヲ以テ分
子ハ家ヨリ脱シ同ク場所ニ存在シ国ヨリ脱シ同ク場所ニ存在シ
家ヨリ国ヨリ絶対ニ独立スルヲ以テ分子ハ自ラ主権者ノ如ク
力ヲ有スルカ故ニ此ニ主権ヲ有スト云フ此義ヨリ主権ヲ有スト法理ノ
国家ニ反シ主権ヲ有スト云フ論ハ国家ニ於テハ国家ニ主権ヲ有スト説明ヲ許スヘカラス
人ハ社会的生存ヲ以テ即チ其権力ハ社会ニ於テ観察スルトキハ
即チ人ハ天然ノ権力ヲ有スル故ニ其社会ニ於テ自ラ優

劣ノ別アリ権力ハ此ニ発生シ権力ハ優劣ノ間ニ於テ其主権
ハ為ニ撲滅スルヲ為メニ用ユルヲ得ス又ハ為メニ用ユルヲ得ルヤ否ヤ問題ヲ
ミテ然ル後角入カ社会ニ於テハ権力カ行ハルヽヤ否ヤ論理上必然ノ結果ヨリ優劣ノ
キヲ平等ヲ入カ社会ニ於テハ即チ然ラサル又ハ権力服従アルヲ
道理ヲ以テ然リト雖モ実上道理上各人主義トスルヲ以テハアリ得ヘカラス故ニ社会
ヲ為スニ於テハ権力服従ノ関係ハ依然トシテ存在スルヲ以テ其権力カ故ニ
社会ヲ支配スルヲモアリ又秩序ヲ維持スルヲモアリ其権力カ社会ニ於テ
ハ絶対的ニ為ス可キヲ其権力カ絶対的ニ為ス可キヲ以テ
其ノ権力ハ孤立シテ自ラ存在スル能ハサルヲ故ニ社会ヲ為ス者ヲ
結合スルヲ以テ分子ハ自ラ権力ヲ存在スルヨリ父母ノ子孫ヲ保護スル
ヨリ生長シテ父母ノ権力ヲ従属スル如ク分子ハ国ニ於テ又同ク主権社
会ヲ保護スルヲ以テ分子ハ社会ニ於テ自ラ権力ヲ存在スルヨリ社会ノ権力ニ

有様ト云ヘルヘシ社会ノ成立ヲ説ク人ハ全ク之ヲ原因トシテ社会ヲ形成セシト説ク人ハ全ク之ヲ結果トシテ現ハレタルモノト見ル即チ此説ヲ採ル我国ノ人民ニ敷衍シテ解明スレハ個人ト我ト親子同種ナル家ノ存在ヲ見個人ト家トノ存在ヲ見個人ト社会ヲ見ルニ其事甚タ明カニシテ社会ヲ以テ個人ノ集合ト見ル此学説ニ於テハ社会主義無政府主義等ノ名称ヲ下シテ甚タ其当ヲ得タリト雖モ社会ヲ以テ個人ノ集合ト見ル此学説ニ於テハ社会主義ナリ各人手ヲ携ヘテ行ノ得ヘキカ如キ事実ニ於テ行ハレ難キ所ナリ此説カ人民ヲ動シ其希望ヲ事実ニセント欲スル種動カス欧州諸国ノ国ヲ危フクスルニ至ルノ因ナリ此学説ニ深ク予カ意ヲ要スル所ハ各人手ヲ携ヘテ行ノ得ヘキカ如キ事実ニ於テ社会ノ存在ヲ認メ社会ヲ以テ個人ノ集合ト見ル点ニアリ

是ニ於テ吾人ハ社会ヲ以テ個人ノ集合ト見ル学説ヲ名ケテ社会主義無政府主義等ノ名称ヲ下シテ甚タ其当ヲ得タリト雖モ社会ヲ以テ個人ノ集合ト見ル学説ヲ名ケテ社会主義ナリト欲スル所ナリ此説カ人民ヲ動シ其希望ヲ事実ニセント欲スル種動カス欧州諸国ノ国ヲ危フクスルニ至ルノ因ナリ此学説ニ深ク予カ意ヲ要スル所ハ各人手ヲ携ヘテ行ノ得ヘキカ如キ事実ニ於テ社会ノ存在ヲ認メ社会ヲ以テ個人ノ集合ト見ル点ニアリ

今ノ社会存在ヲ代表スル者トシテ社会ノ存在ヲ認メ其主権ノ存在ヲ辨護セラル国ハ主権ノ存スル国ニシテ仏国革命ノ原因ヲ講読セシ人ハ大抵仏国ノ性質ヲ知リ居ルヘシ

説ヨリ出テタルモノナリ

国家ニ就テ他ノ学説ヲ述ヘント欲スル所ヲ先ツ一般ニ国家ノ何タルヤヲ説明スルモ亦タ必要ナリ社会ト国家トノ差異ハ之ヲ後章ニ説明スヘシ

即チ茲ニハ唯タ国家ノ性質ノ大体ニ就キ Laband, Jellinek 氏等ノ近来ノ発表シタル学説ヲ参考シテ国家ノ性質ヲ論スルニ止メ何ヲ以テ国家ヲ論スルカ如キ法理思想ノ変遷ハ

従来独乙国法学者ノ
[illegible]
定義ヲ与ヘテ所謂有機体説ノ国家ハ法人ニ
ニテ有名ナル
独乙ノ法学者ハ大ニ之ヲ攻撃シ
ナリ之ヲ法人説ノ流ト
独乙ノ公法学者ノ大ニ之ヲ攻撃シ
機体説ト称シ
有機体説ハ国家ハ独立ノ生存アル
独立ノ意思アリ生命アリ例ヘハ人体ノ如シト説明セル
説ヲ支持シテ国家ハ有機的ノ社会ナリト

機械的ノ組合ニ非ス有機体ナリト
ニ基キテ法人説ハ私法上ニノミ
スル推及シテ国家モ
体ヲ為シ独リ団的ノ性質ヲ有スト
社団ナリトシテ国家ノ法人ナリトスル
公共ノ社会学的ノ観念ヨリ
就中法人説ハ大ニ公法学者ノ主張シテ今日
ノ国家ノ法人ナリト説明スルニ有機体説ハ国家ノ社会的ノ論ヲ基
テ直接ニ刑罰ヲ科シ法律ヲ以テ
ル人間ニ有機体ノ如ク直接ニ法律ヲ以テ
性質ハ有機体ノ生物ニ

國家ノ事情ハ有機体ノ組織ト異ナルヲ以テ法理ノ應用ニ於テ
誤ルコト多シ法人説ハ其主意ハ可ナレドモ詞穏カナラズ通俗ニ法人トモイヒ
得ルカラヨリ或ハ国ニ権利義務ノ主体タル権ヲ與ヘテ之ヲ意味
スル人ニ法律ノ製造物ナリ然レドモ国家ハ法律ノ製造物
ニアラズ国家カ法律ヲ作レルニ非ズ法律カ国家ヲ作レルナリ
法律ハ人ノ如キ者モ人ト同一ノ権利ヲ與ヘラレタルモノニ
過ギズ国家ハ然ラズ国家ハ性質ヲ異ニスルヲ以テ法律ハ国家
ニ対シテ権利ヲ與フル能ハズ国家ハ主宰ニ向テ論ズヘキニアラス
如何ニモ国家ハ人ニ非ズト説明セル方法
人自然人ト区別セル民法ノ規定ハ之ヲ法
ヲ以テモ国家ハ主権ノ本体ナリト説明シテ総テ法理ノ性質ヲ十分ニ言現
ハス故ニ我輩ノ前段ニ述ヘタル説明ニ変ヲ来スニアラズシテ主権ノ本体

ナリト云ヘル主意ヲ言ヒ顕ハシ人格ヲ有スト云ヘル説明ニ変ヲ来スニアラス
ノ法ノ主体トモイヘル故ニ国家ハ人格ヲ有スト云ヘル説明ハ言ヒ換ヘ
當ナリ又法人国ハ人格アリトイヘル時ハ法人ト区別ノ自然法人ノ成立ヲ論ズル時ハ
法人ト区別ノ自然法人ノ成立ヲ論ズル時ハ
古有機体説法人説ヲ高弟特ノ議論ニ非ズ其最モ有力ナルモノ独
ノMaurenbrecherノ主ヒシ人民トヲリ
ヲ以テトスル非ズ強制ノ観念ヲ
スルヲイデルハ国家ニ従ヒ強制ヲ
リトスルハ国家ニ被治者ナリ治者ヲ
最モ有名ナル国法学者ニテスラ
ナリ故ニ其説明ニ変ヲ来ス国家ニ人格ヲ与ヘル説ニ

非ス為メ著ノ君主ニシテ国家ニ被ラシ者ナリ
ト説明スルモ亦国家トヨウ文字ノ意義ノ変遷ヲ
証スルノ一ツデアル
国家ト云フノハ我国ノ語ニ直セバ国主若クハ国家トヨウナ
生活人民ノ有形ノ品物ヲ指ス成場合ト
用ヰラルル習慣アルガ故ニ之ヲ説明スルニ
往往ニシテ我憲法ノ所謂帝国ノ意味ヲ
表ス主ニ依テ説ケル生活人民トヨリ
異ラヌ国ノ用方ノ議論ニ
往往ニシテ実際ノ議論ニ
往往ニシテ国家ノ法律
主権又ハ国家ト云フ意味生ズル即用的トヨリ
家ノ語ヲ用ヰル生ズル意味ニ非ズシテ
ムシロ意味ニ非ズト説クノ方ガ
ムシロ意味ニ非ズト説クノ方ガ

前述ノ如ク説ヲ異ニスルヲ以テ
ガイデルノ説ノ如ク国ヲ人格ヲ有ス
権利義務ノ主体ニ非ズト称スルニ至ル
ニ於テ国家ハ法律ニ依リテ
遂ニ国家ノ主格ナルカ又ハ其ニ依リ用的
ヲ法理的ノ観念ニ於テ今ニ
来ル主格即チ彼我ノ人ヲ要スル主格
契約トヨウ法律ニ依リ人ト人トノ間ニ
為サルヲ以テ若シ之ヲ契約ニハ国民
及用的ノミノ法理上ノ観念ヲ
国家ノ主格ナルカ用的ナルカ法律ニ
来ル通リ説明ハ国家ヲ主格ト見做ス者ナリ

目的ト見做シ故ニ此ニ說ノ如ク於テ更ニ許ラント欲ス
國家ノ法律ノ主旨ニ非ラズ又法律ニ非ラザル事ト雖モ
リト說明スル如ナリ之ヲ試ミニ國家ト云フ者
存在スルニ非ラザル人ト人トノ權利義務ニ干係ヲ
與ヘザル間ニ實ヲ爲スヲ一般ニ
或權利ニ服從スルトキハ法律ニ干係ヲ
トキハ者存在スルニ非ラザル人ト人トノ干係
スルニ非ラザル人トノ干係ヲ名ケテ國家
事ニ關スル爲メニ種種ノ解釋ヲ試ミル者
故ニ未タ之ヲ贊成スル者ニ說ヲ
メタル部ノ意見ナリトシテ

謂主權政体ノ行ハルヽト然ラサルトニ於テ主権ノ
在ル國ノ大革命ノ由テ生ずる所ニシテ國民ノ奉ずル主義ニ從ヒ政治司法ノ
改革ヲ行ヒ即チ政治ノ形式ヲ法ヲ改メシトキト雖モ國体ニ
毫モ変更セサルカ故ニ政体ヲ改ムルハ國体ヲモ変更セサルヲ
以テ國ノ歴史的ノ國体ヲ打破リ主権ノ所在ヲ変更スルカ如キ議
論ノ敢テ許サヽル國ニシテ我國ニモ及ホシタル先考ノ勢力皆我
皇室ノ歴史ト共ニ國体ヲ成シ政体ヲ改メシトキト雖モ國体ニ
変更ヲ来サヽルヲ以テ此等法理ノ政治論トシテ共ニ深ク鑑ミヘキ所ナリ
トス

國体トハ主権ノ何人ニ在ルカヲ云フニ外ナラス而シテ之ヲ普通ニ
アリストートルノ國体ヲ三ニ分ケシニ從ヒ今日迄其人カ此区別ニ從ヒ
論ヲ為シ来リ甚シキ別ハ民主國体貴族國体君主國体ノ三ナリ

[illegible]ハ主権ヲ有スル人民ノ全体ヲ謂ヒ自然人ノ手ニ一ヲ
ト見ルノ故ニ無形ノ国体甚シキハ主権ヲ有スル近世ノ学説ニ於テ
サリシヲ故ニ國体ヲ分ケテ君主ト云ヒ一人ノ主権ヲ指シ社会ノ貴族
ノ数ノ貴族カ主権ヲ持ツカ此三ノ種類ノ國民ヲ指シ共ニ主権ヲ持ツカ
ナリト見做サレタルヨリアリストートルニ於ケル
其國体論ノ名ノ希臘ヲ以テ當時ノ國家ノ主
脳ヲ都府ト称シ都府ヲ各独立ノ國ト為シ君主ト称シテ全権ヲ握リ或ハ数
或ハ人カ君主ト称シテ全権ヲ握リ或ハ数ノ人カ政府ヲ為シテ多数ヲ
或ハ市民ノ総集会ニ於テノ権力ヲ行ヒシヲ見テ希臘ノ諸主権ハ國体ヲ三ニ分ケシト雖モ
凡ソ國体ノ区別ノ際ノ理論ニ於テ全ク区別ヲ尽スヘキ者ニ非ス亦タ主権ハ
一人又ハ数人カ有スル処ニアリストートルニ於ケル区別

ナル事ヲ生ズ今之ヲ想像ニ尽スモ猶ホ之ヲ得ベシ而シテ保護セル国家ノ思想ニ於テハ権力ノ主体ハ必ス自然人ニシテ人タルノ要件ヲ具ヘ通常ノ法律関係ニ於テ人間自然人ニシテ権利ノ主体タル資格ヲ認メラルヘカラス自然人ニ非ラサレハ権力ノ主体タリ得ルカ故ニ必ス人ヲ数フルニ三ノ区別アリテ主権ノ所在ヲ論シ尽スヘキ者ニ非ラス故ニ国体ハ其国ノ歴史ニ依リテ定ムヘキ者ニシテ現在ノ人ノ主権ノ存スル所ト認ムル信仰ニ於テハ即チ主権ノ所在ヲ論スル問題ナリ今ノ国ニ於テ現在ノ人ノ主権ノ存スル所ト社会要求ノ問題ナリ今ノ古版会社ニ於テハ即チ主権ノ所在ヲ論スル者ニ非ス故ニ国体ハ其国ノ歴史ニ依リテ定ムヘキ者ニシテ現在ノ人ノ主権ノ存スル所ト認ムル信仰ニ於テハ即チ主権ノ所在ヲ論スル問題ナリ今ノ古版会社ニ於テハ即チ主権ノ所在ヲ論スル問題ナリ今ノ国ニ於テ現在ノ人ノ主権ノ存スル所ト社会要求ノ問題ナリ

ノ区別アリテ主権ノ所在ヲ論シ尽スヘキ者ニ非ラス故ニ国体ハ其国ノ歴史ニ依リテ定ムヘキ者ニシテ現在ノ人ノ主権ノ存スル所ト認ムル信仰ニ於テハ即チ主権ノ所在ヲ論スル問題ナリ今ノ国ニ於テ現在ノ人ノ主権ノ存スル所ト社会要求ノ問題ナリ

メラルヘカラス自然人ニ非サレハ権力ノ主体タリ得ルカ故ニ必ス人ヲ数フルニ三通ノ法律関係ニ於テ人間自然人ニシテ権利ノ主体タル資格ヲ認

ナル事ヲ生ズ今之ヲ想像ニ尽スモ猶ホ之ヲ得ベシ而シテ保護セル国家ノ思想ニ於テハ権力ノ主体ハ必ス自然人ニシテ人タルノ要件ヲ具ヘ通常ノ法律関係ニ於テ人間自然人ニシテ権利ノ主体タル資格ヲ認

非ス全権ノ君主カ独リ権力ヲ有揣ヲ見テ専制ノ政治ト云ヒ立法司法行政ノ三権力ヲ人カケテ国民ノ撰挙ニ依ル国会独立セル裁判所ヲ設ケ憲法ヲ定メテ政治スルモノヲ通常立憲政体ト云ヒ又ハ確実ナル定義ナル詞ヲ非ル政体ニ其国ノ成文ノ法律制度ニ於テ所ニテ各国ノ法律制度ノ異ナルニ即チ各国政体ノ同シカラサル証拠ト為ス政体ノ種類ヲ示セトモ之ニ関スル問題ハ法律論ヲ以テ容易ニ得ル限リニ非ス各国ノ現行制度ハ何ナルカトイフ問題ニ帰着スル我帝国ノ憲法ヲ論スルニ我政体ヲ説明スルカ即チ我現行ノ政体ノ規定ヲ見テ之ヲ評スル所ニシテ我憲法ノ規定ハ即チ我現行ノ政体ノ規定ナリ

モール一国家論ヲ読ムニ

ヘン氏澤ニハ国体政体ノ区別ヲ明ニセル者ニシテ其ノ論旨モ亦

非ス全権ノ君主カ独リ権力ヲ有揣ヲ見テ専制ノ政治ト云ヒ立法司法行政ノ三権力ヲ人カケテ国民ノ撰挙ニ依ル国会独立セル裁判所ヲ設ケ憲法ヲ定メテ政治スルモノヲ通常立憲政体ト云ヒ又ハ確実ナル定義ナル詞ヲ非ル政体ニ其国ノ成文ノ法律制度ニ於テ所ニテ各国ノ法律制度ノ異ナルニ即チ各国政体ノ同シカラサル証拠ト為ス政体ノ種類ヲ示セトモ之ニ関スル問題ハ法律論ヲ以テ容易ニ得ル限リニ非ス各国ノ現行制度ハ何ナルカトイフ問題ニ帰着スル我帝国ノ憲法ヲ論スルニ我政体ヲ説明スルカ即チ我現行ノ政体ノ規定ヲ見テ之ヲ評スル所ニシテ我憲法ノ規定ハ即チ我現行ノ政体ノ規定ナリ

モール一国家論ヲ読ムニ

ヘン氏澤ニハ国体政体ノ区別ヲ明ニセル者ニシテ其ノ論旨モ亦

國体政体ノ種類ハ多岐ニ亘ルト雖今其ノ主ナルモノヲ擧ケンニ
實際君主國体ト称セラルル共和國体トハ最モ多ク見ル所ナリ故ニ此三者ヲ
特ニ實例ニ依リテ說明スルヲ可シ
君主國体トハ君主ヲ立テテ主權者トシ
且國有ノ權力ヲ擧テ國ヲ統治スル人ト
爲シテ代々ニテ國ヲ治ムル者ハ君主ニシテ之ニ
カハルヘキ國ヲ主權ヲ有スル者ヨリ之ヲ統轄
スル國ノ國体ノ如キ是ヨリ政體ニ於テハ君主ト名称ヲ有スル此ノ
說ト同一視スヘキ者ナリ自尊義ノ君
主ノ如キ是ヨリ君主トハ統治ノ主權ヲ有スル
ニ物ハシテ專セス國ノ組織上其人ヲ主權ノ機關
ナリトスル學者ノ主義ヲ君主國トスル種ノ
國体ノ如キ亦君主國体ニ屬スルモノトス
共和國体トハ國ノ主權ヲ有スル者ヨリ之ヲ
行ハシムル政体ヲ有スル者ヲ云ヒ此政体ヲ
カ共和ニシテ君主ノ權ヲ缺如スル
ヲ以テ君主國体ニシテ憲法ヲ定メ國會ヲ開
設シ君主國体ニシテ憲法ヲ定メ國會ヲ開キ
政ヲ行フトハ其意味ヲ異ニスルモノナリ
君主國体ト共和國体トヲ對峙シ
純粹ナル君主政ト純粹ナル共和政トハ國体ヲ
分ケテ君主專制ノ國体ト萬民共和國体トノ二ツニ分ツヲ
普ハ君主ニ代ヘテ君主國体ト共和國体トヲ以テ
現今文明ノ諸國ニ就テ觀察スルニ君主國体ト共和國体ト
國体ノ區別ヲ擧ケ君主國体ノ性質ヲ已ニ說明シタリ君主國体ヲ

権主義ヲ以テ主権者トナスニ至レリ
然ルニ国体主権ノ学説ハ君主ヲ以テ国家ノ代表人トナスニ外ナラス之ヲ主権者トナスモ
亦タ君主ヲ以テ主権者トナスモノニ外ナラス又ハ或特定ノ人ノ団体ヲ以テ主権者トナス
無形ノ国体主義ニ至テ主権ノ本体ト国体トノ区別ハ愈ヨ微ニ入リ細ヲ穿ツニ至レリ
而シテ法人ノ主権ハ国ヲ以テ無形ノ人格ト為シ君主ハ国ノ機関ナリトシ国体ハ法律
無形ノ人格ヲ主権ノ本体トナシ君主ハ国ノ大統領ト
称スルモ亦タ無形ノ主権ノ機関ニ外ナラスト為ス而シテ其主義ハ又タ分テ二派トナル
曰ク君主国体ト称スル所ノ国ハ我今発達セル完全ノ国想ニ在
リテハ君主共和国体ヲ論ゼス共ニ国体ト称スルヲ得ト為シ又曰ク君主ハ各自ノ人民ニテアリト唱ヘタリ此説ヲ主張スル者ハ如ク多数ノ個人カ各主権者ナルカ如
ク多数機関ヲ以テ主権

前回ノ後リニ欧州ニゲルマン人種ノ国体ノ成立ヲ君主国体トシテ彼ノ英和国体ガ本ニシテ君主制度ノ戦争其他ノ原因ニヨリテ英力ヲ統一スル必要ヨリ生ジタル歴史上固有ノ君主国体ナルモノアリ固有ノ君主国体ハ外部ノ情況ニ迫ラレテ君主ノ置キタルニ非ズシテ国体ノ成立其者ノ性質トシテ或特定ノ人ノ権力者ヲ社会ニ於テ認識シ且ツ是認スル主義ヨリ生ジ大家族ノ主人ノ如キ人ヲ以テ国体トスル義ナリ即チ血族国体ノ義ナリ前ニ述ベタル如ク英ゲルマン人ノ欧州ニ殖民シタル当時ニ於テハ各ノ国体ハ共ニ同シテ平和ヲ維持シ為メニ外ニ共ニ国体ガ壁共上又共ニ同ジク血族国体ガ壁共上又共ニ同ジク血族国体ガ壁共上又共ニ同ジク血族

ル国体ヲ為スノ同一家族ヲ国体ヲ為スノ同一家族ヲ国体ヲ為スノ同一
体ヲナスコヲ事実トス又国民国体ヲナシテ国法ヲ
設ケ信ヲ平和ヲ維持スルヲ目的トスルヲ以テ
国体ヲ為スヲナリトスル観念ヲ本トシ始メハ父母及其直接ノ子孫カ
一ノ家ヲナスカ如ク国民ノ始メ一ノ家族ノ上ニ主権ノ存スルカ
如キ家族国体ノ主権ハ家長ノ権ハ其家族ヲ保護スルノ力アリ家族ハ
家長ニ服従スルヲ以テ義ナリトスル如キ其組
織ノ国法ニ基ク場合ニ於テハ民族ヲナスノ点ニ於テ
ハ家族国体ノ主権ハ家長ノ権ニ類似スルヲ以テ家長ノ権ヲ以テ
主権ノ本源ト為シ又ハ主権ハ家長ノ権ヨリ生スルモノナリトスル
学者ヲ生ス此ノ種ノ人ト雖モ国ヲ無法ノ
敵国ヨリ防衛シ新タニ土地ヲ殖民シ又ハ
新タニ国体ヲ形成セントスル場合ニ於テハ其
ノ基礎ノ観念ノ基カ為ニ所謂其他国体ヲナスモノナリ即度欧羅巴

人種即チアリアン人種ノ如キ独民ニシテ人口
ノ増殖ニ趣キ仍ホ土地ヲ占有スル能ハサルニ
至レハ或ハ他ノ土地ニ移住シ同一ノ人種ヲ
以テ新タニ国体ヲ形成スルノ場合ニ於テハ其
国体ノ基礎ハ純然タル人種ニ存スルヲ以テ
其国体ノ主権ハ人種ノ権ニ外ナラス此ノ種ノ
国体ハ人種ノ血統ヲ重ンシ同一ノ人種ヲ
以テ組織スル国体ヲ理想トスルヲ以テ
其国体ノ主権ハ人種ノ権ニ類似スルヲ以テ
人種ノ権ヲ以テ主権ノ本源ト為シ又ハ主権ハ人種ノ権ヨリ生スルモノナリトスル
学者ヲ生ス此ノ種ノ人ト雖モ国ヲ無法ノ
敵国ヨリ防衛シ新タニ土地ヲ殖民シ又ハ
新タニ国体ヲ形成セントスル場合ニ於テハ其
国体ノ基礎ハ純然タル人種ニ存スルヲ以テ
其国体ノ主権ハ人種ノ権ニ外ナラス此ノ種ノ
国体ハ人種ノ血統ヲ重ンシ同一ノ人種ヲ
以テ組織スル国体ヲ理想トスルヲ以テ
其国体ノ主権ハ人種ノ権ニ類似スルヲ以テ
人種ノ権ヲ以テ主権ノ本源ト為シ又ハ主権ハ人種ノ権ヨリ生スルモノナリトスル
学者ヲ生ス此ノ種ノ人ト雖モ国ヲ無法ノ
敵国ヨリ防衛シ新タニ土地ヲ殖民シ又ハ
新タニ国体ヲ形成セントスル場合ニ於テハ其
国体ノ基礎ハ純然タル人種ニ存ス

ミテ君主ノ家長権ノ発達シタル情況ヲ同ジ人種カ同ジ風俗ヲ具ヘタル所以ヲ述ヘテ此国民固有ノ基礎トシテ固有ノ主制度ヲ維持シタルヲ以テ国体ノ変革ヲ来サヽリシ事ヲ例証シ今ヤ欧州ノ大体ノ観念ニ於テ等シク可ナリ行ハレ居ル君主国体ト我国体トノ異同ヲ論スルノ形式ヲ以テ国体論ト云ヒ政体論ト云フ説明ヲ下シ欲ス

然ルニ国体ノ変革ト云ヒ政体ノ変革ト云ヒ其実際ニ於テハ区別ヲ立ツルノ困難ナルハ固ヨリ論ヲ俟タス故ニ其実際ニ於テ区別ヲ立ツルノ困難ナルヲ以テ現今ノ如ク行ハレ政体ヲ主トシテ論ヲ立ツルノ法理上ノ観念ヲ欠クノミナラス政体ト称スルモノハ国体ヲ基礎トシテ之ニ附随スルモノナルヲ以テ政体上ニ於ケル変革ハ国体ニ及ホス事実上ノ影響ヲ観察スルニ便ナルヲ以テ政体ヲ主トシテ論ヲ立ツルノ方法ヲ取ルヲ以テ適当ナリト信ス

故ニ其実際ニ於テ区別ヲ立ツルノ困難ナルヲ以テ現今ノ如ク行ハレ政体ヲ主トシテ論ヲ立ツルノ法理上ノ観念ヲ欠クノミナラス政体ト称スルモノハ国体ヲ基礎トシテ之ニ附随スルモノナルヲ以テ政体上ニ於ケル変革ハ国体ニ及ホス事実上ノ影響ヲ観察スルニ便ナルヲ以テ政体ヲ主トシテ論ヲ立ツルノ方法ヲ取ルヲ以テ適当ナリト信ス

故ニ其実際ニ於テ区別ヲ立ツルノ困難ナルヲ以テ現今ノ如ク行ハレ政体ヲ主トシテ論ヲ立ツルノ法理上ノ観念ヲ欠クノミナラス政体ト称スルモノハ国体ヲ基礎トシテ之ニ附随スルモノナルヲ以テ政体上ニ於ケル変革ハ国体ニ及ホス事実上ノ影響ヲ観察スルニ便ナルヲ以テ政体ヲ主トシテ論ヲ立ツルノ方法ヲ取ルヲ以テ適当ナリト信ス

觀念ノ理論トシテハ近世ニ於ケル所謂三權分立論ノ基
第ナリ即チ立法司法行政ノ三ツノ權力ヲ獨立シテ相犯サヽルヲ主義
トスルナリ孰レノ三權論ハ法理ノ議論トシテ大ナル誤リナリ國權ヲ
三分チ各獨立ノ主權トナスヽ主義ハ
又ヽ Montesquieu 氏ノ未分主權ノ誤リヨリ生ジ主權ヲ政府ニ
主權其者ノ分割論ヲ唱ヒシヨリ國體ノ變更ニヨリ國權ノ三分
ノ種類ナリトスル所謂ユル誤論ノ說ヨリ來ル故ニ
大ニ愚ヲ惹起スルニ至ル者ノ理論ノ說ハ
制度ヲ行フ爲メニ主權ヲ驅逐シテ國體ノ變更ヲ來シ共和政體トナス
ニ如カズ此主義ヲ實行シ能ハストノ爲ニ
實行セントスルノ變動ナリ故ニ現今ノ
仏國ノ三權分立論ヲ攻撃スルハ此故ナリ仏人ノ說ク所ニ從ヘハ獨リ英
國ノ憲法ニ於テ立法ノ權ハ兩院ノ議會ニ在リ行政ノ權ハ王ニ在リ
司法ノ權ハ裁判所ニ在リ然ル歟ヲ仏人ノ說ヲ
係ヲ以テ憲ヲ政體ノ論ヲシテ國體ノ說ヲ
心ヲシテ誤ラシトノ信ヲ主權ヲ者ノ今國ヲ
文字通リニ獨立シテ孰レモ各憲法上ノ權限
ヲ有ル歟ノ意味ヲ有シテ主司法行政ノ權ヲ今ヲ區キ其ノ
孰レモ權限ヲ憲法ニテ定メ相犯サヽルヲ見ル歟ノ政治ノ主義ヲトシテ
孰レモ政治ノ方法ヲ以テ政體ノ社會
心ヲシテ誤リナリトスル可シヽ我邦ノ說ヲ
以下此主義ヲ唱ヒル人ト雖モ今ノ政體ヲ主
權ノ區別ヲ見做サヽルヲ得ス現
吐ル輕ノ所ヲ以テ國體論トセス政體論トセス
論ハ主トシテ政體ノ特質ナリトスル歟ナリ何ヲ故ニ主權ノ政體ヲ三

推論ヲ主義トスルカ、唯政治ノ便宜ヲ
基本カ民主国ニ非サレハ共和主義ヲ
実上誤リナリトハ今日既カナリ我国ハ
国ニ於テモ政体ニ基タル物似タリ国体ニ
普通ノ法律ノ定ムル国民ニ限ルト雖モ基
ナリ米国ノ歴史ヲ見ルニ初メハ共和国体ニ非ス
ヲ以テ欧国ニ屈リニ従ヒ君主国体ナリシモ今ヤ欧
欧国ト共ニ我国体ナリトシテ明カナリ況ヤ日本ニ於テ
体ヨリ成リ我国ノ国体ノ如キハ世界ノ歴史ニ於テ普通ノ
ミモノナリ日本ノミナラス依リテ発生セシコトハ
三権分立論ハ元ヨリ国民ニ制度ヲ
究シテ立国法行政ノ分ニテ君ハ知ラサルヲ仏国ト称セラルル孟
ハ国権カ「可ナリキ」ナレハ我従ヒ
者ヲ立テ以テ共和政体タルヲ要ス
ヲ為ニハ三権分立ノ主義ヲ要スルヨリ
三権分立論ハ権力ヲ分立シ非マシテ唯絶対機関ノ分立ヲ
必要ニスルナリ此ノ如クニテ立憲政体ノ主義ハ
三権分立論ニ就テハ Montesquieu et Blackstone 及ヒ
Commentaries の講ノ

併立憲ノ憲法
実法ノ国ノ政体ヲ定ムル法則ナリ国家主権カ国ヲ統治スル形ヲ

憲法規則ニ於テ之ヲ定メ立法ト行政ト司法トノ三権ヲ特ニ分立ノ意味ヲ以テ之ヲ組織シ政体ヲ採用シタル憲法ヲ云フ特ニ一一ノ名称ヲ附スルニ非ス仏国ノ今日ニ於テハ憲法ト称スルモノハ立法行政ノ三権ヲ認メタル国ノ憲法ヲ謂フ而シテ憲法ハ憲法ヲ以テ国会ヲ設ケ立法権ヲ独立セシメ行政ノ全国ヲシテ国会ノ監督ニ服従セシムルノ意味ヲ有スルカ如シ用ヒラルル仏国ノ政体ハ憲法政体ニシテ即チ立憲政体ノ基本ヲ定メタル法則ヲ概括的ニ解釈シ而シテ此難ケレハ漫リニ旧ノ政体ヲ改メサル主義ニ依テ総テ民意ヲ国ノ政体何レヲ問ハス

原則ヲ示スモノヲ憲法ト称スルヨリ我邦従来公認ノ政体ノ法ナリトスル事ヲ憲法ト称スルノ慣例ナリトノミ見做サヽル者モアルヘシトナスヨリ此意味ニテ憲法ヲ生ス

法遠風ニテ和親ヲ謀ル的ノ規定ヲ所ナリ仏国ニテハ相親ヲ誤スル事ヲ約スルトキハ風ヲ昏乱シ法律権ハ国会ニアリ行政権ハ王ニアリトキハ政体ノ規則ナルカ故ナリ仏国憲法ヲ立テ三権分立ノ権限ヲ規定シメルニ拘ラス実際周旋シタル主義カ異ナル法則ナリトスル仏国風ヲ考ヘテ憲法君主ト国会並ニ裁判所ノ間ノ規約ノ如ク各約束ヲ立テ権限ヲ犯サヽル規定ヲ設ケ憲法ハ普通ノ法律ト性質ヲ異ニシ権ヲ主権カ人民ト会合シテ設ケシ所ノ憲法ニシテ三権ノ相互ノ部ノ規約ナリトスル精神ナリ其従来トシテ憲法違反トキハ三権カ協力シ規約ヲ背キ権限ヲ犯スヲ見做サル故ニ憲法違反ノ問題ハ各国家務ヲ掌ル権限ヲ犯シタルヨリ故ニ国会ハ即チ国会ノ

ヲ以テ不法ノ行為ヲ為シ又ハ為サントスルトキハ不法ノ行為ヲ為サントスルコトヲ認メ其ノ行為ヲ為サントスルトキハ之ヲ防遏スルノ権利ヲ有スルコトハ固ヨリ言ヲ俟タサル所ナリ而シテ国会ノ議決ヲ以テ憲法ノ改正ヲ発議スルハ国会ノ権限ニ属スルヲ以テ国会ノ議決ヲ以テ憲法ノ改正ヲ発議スルハ不法ノ行為ニアラサルヤ勿論ナリ然レトモ

憲法第十一條ニ權利行爲ト云フ文字ヲ用ヰ
シタル者ハ此點ニ於テ誤解ヲ免レス
獨リ憲法ノ問題ノミナラス國家權ヲ行使
スル主權ノ發動ハ總テ之ヲ權利ト稱スル
憲法ヲ定メ君主ト人民又ハ君主ト國ノ關係
ヲ云爲スルモノハ皆之ヲ權利ト稱スルヲ
ハ一般ノ慣例ニシテ學者モ亦之ヲ怪マス
モ臣下ヲシテ容易ニ權利ヲ主張スルノ
ヲ得セシメサルヲ以テ國家權ヲ行使スル
ニ當リテモ君主ハ常ニ其ノ權利ヲ主張
スルノ意思ヲ有スルモノニアラス
ヒ國家權ヲ行使スルニ當リ君主ハ其ノ意
思ヲ自由ニ發表スルノ權利ヲ有スルモノ
ニアラス
獨リ憲法ノ問題ノミナラス國家權ヲ行使
スル主權ノ發動ハ總テ之ヲ權利ト稱スル
憲法ヲ定メ君主ト人民又ハ君主ト國ノ關係
ヲ云爲スルモノハ皆之ヲ權利ト稱スルヲ
ハ一般ノ慣例ニシテ學者モ亦之ヲ怪マス
モ臣下ヲシテ容易ニ權利ヲ主張スルノ
ヲ得セシメサルヲ以テ國家權ヲ行使スル
ニ當リテモ君主ハ常ニ其ノ權利ヲ主張
スルノ意思ヲ有スルモノニアラス
ヒ國家權ヲ行使スルニ當リ君主ハ其ノ意
思ヲ自由ニ發表スルノ權利ヲ有スルモノ
ニアラス

權カ絶對的ニ行ハルヽカ如キ封建時代ノ
法律制度ハ封建時代ノ遺物ヲ殘シ
ヒ
ヒ
ヒ

[illegible]故ニ限ラス急命令ノ如キ事前ニ於テ他ノ法律ヲ
以テ直ニ之ヲ日本ノ憲法ニ違反スト為スヲ得ス又日本ノ憲法ニ生
命財産ニ関スル規定アルヲ以テ行政上ノ強制執行ヲ為スニ
当リ日本ノ急命令ヲ以テ憲法ニ違反スト為スヲ得ス
憲法ニ違反スルヤ否ヤハ裁判所ニ於テ之ヲ決スヘキ問題ニ
シテ行政官ニ於テ之ヲ決スヘキ問題ニアラス
何トナレハ私権ニ関スル争訟ハ裁判所ノ管轄ニ属スルヲ以テ
ナリ然ルニ国会ノ議決ヲ経タル法律ニ違反スルヤ否ヤハ
純然タル私権ニ関スル争訟ニシテ裁判所ノ管轄ニ属スヘキ
事項ナルヲ以テ裁判所ニ於テ之ヲ決スヘキモノナリ
仏国ニ於テハ憲法ニ違反スルヤ否ヤハ裁判所ニ於テ之ヲ決スヘキ
問題ニアラス憲法ニ違反スルヤ否ヤハ国会ノ自ラ決スヘキ問題
ナリト為シ英国ニ於テハ憲法ニ違反スルヤ否ヤハ国会ノ自ラ決
スヘキ問題ナリト為ス
日本ニ於テハ憲法ニ違反スルヤ否ヤハ裁判所ニ於テ之ヲ決スヘキ
問題ニアラス憲法ニ違反スルヤ否ヤハ国会ノ自ラ決スヘキ問題
ナリト為スヤ又日本ニ於テハ

今日迄メテ居ル法ニ出ヅルモノト云フ故ニ即チ三権分立ノ憲法
ニ違ヒナイト云フ理由ヲ以テ之ヲ読ミ得ルト云フ点ニ於テ仏
国ノ憲法ト異ナル

憲法ト高義ト云フ事ハ一ハ形式的ノ意義ナリ一ハ実質的ノ意義ナリ
例ヘハ国ノ根本法ハ国体政体ノ変動ヲ定メタル法則ヲ云フ法
律ト云フハ形式的ノ意義ニ於テ国法ナリト云フ高義ナリ例ヘハ
有ラユル国法ハ憲法ニ違反スルヲ得ス憲法ハ最高ノ効力ヲ
有スト云フ場合ノ憲法ハ政体ヲ規定スル規則ナリト云フ
ガ如キ実質的ノ意義ニ於テ憲法ハ最高ノ法則ナリト云フ若
クハ命令ヲ以テ変更スルヲ得サル国ノ法ナリト定義スルハ形式的
ノ定義ニ依ルヨリ例ヘハ英国ノ如キハ実質的ノ憲法ヲ有スレドモ形式的ノ
憲法ト云フ所謂憲法ノ規則ハ有セス仏国ニ於テハ形式的ノ憲法ト実質的ノ憲法トノ区別ヲ
為シ仏国ニ於テハ憲法ト法律トハ其効力ニ於テ同シ憲法ノ改正ハ国会ノ
改正ヲ経ルヲ以テ憲法ト法律トハ其効力ニ於テ同シ

又ハ Land empire ト云フ眞義ナリ然レ
ドモ本邦ニ於テハ未タ此ノ眞義ヲ
成サヽレハ民事ニ關スル法律ヲ
使フ處ニ從ヒ法律ヲ使フ處ニ
得ル事ハ他ノ歐洲ノ國ニ論ナ
トヽ法律ヲ以テ最モ強キ國ト
之ノ最高ノ効力アルモノトス而
テ此ノ教科書ヲ綴リシ法律ノ
見ルハ此故ナリ
我憲法モ實ニ前ノ眞義ニ
義ニ於テ憲法ヲ以テ最高ノ意思トセル憲法ノ法
律ノ上ニアリ法律ヲ改正スルコヲ許サヽル實ニ
則ヲ示スヘシトスルニ國家最高
義ニ於テ憲法ヲ以テ最高ノ意思
ヲ述フヘシトスルニ憲法制定ノ精神カ
異ナル其主ノモノナリ故ニ文字上ノ解釋
者トシテ全然ノ力ヲ以テ定メタルモノヽ
成ヲヽメ者ナリ憲法ヲ以テ君主ト國會ノ
タルナリ之ヲ以テ法律ヲ同一視スル
ハ國會ノ同意ヲ以テ君主カ發布
ルヽ者ヲ法律ト稱スルナリ憲法モ
法則ナリ故ニ憲法モ又君主ト國會ノ
實上國會カ發議者ニテ君主ハ
決ノ國ニ於テ君主ハ國會ノ

ヘン故ニ法律ヲ以テ憲法ヲ改正スルコトハ性質上ニ於テ我国ノ憲法ニ改正ノ手続ヲ定メテ居ラヌ場合ニ於テ全然ソノ憲法ヲ破壊シ又ハ廃棄スルノ意思ヲ表示シタルモノト認メラルル場合ニ於テハ国会ノ協賛ヲ得テ制定セラレタル法律ト雖モ憲法ヲ改正スルノ効力ヲ有セサルモノト解スルヲ相当トスルノデアリマス彼ノ帝国憲法ノ改正ニ関スル法律ノ如キハ国会ノ協賛ヲ経テ制定セラレタルモノデアリマスケレドモ之ニ依テ帝国憲法ノ基本主義ヲ変更スルコトハ出来ナイト云フノガ通説デアリマス又現行憲法ノ改正ニ関スル法律ノ如キモ国会ノ協賛ヲ経テ制定セラレタルモノデアリマスケレドモ之ニ依テ現行憲法ノ基本主義ヲ変更スルコトハ出来ナイト云フノガ通説デアリマス

茲ニ於テ吾人ハ帝国憲法ニ憲法ヲ改正スルノ権限ヲ認メタル以上ハ如何ナル憲法ノ改正ト雖モ之ヲ為スコトヲ得ルノ論ヲ生ジ又現行憲法ニ於テモ憲法ヲ改正スルノ権限ヲ認メタル以上ハ如何ナル憲法ノ改正ト雖モ之ヲ為スコトヲ得ルノ論ヲ生ジ来ルノデアリマス

スルコトヲ得ルモノナリ（マリナガル・ビルオブ・ライト・ヂ・ユー・エス・エー・ページ一七六）ト云フ様ニ憲法ト同ジ効力ヲ有スル法律ヲ以テ憲法ヲ改正スルコトヲ認メテ居ル場合ニ於テハ憲法ニ改正ノ手続ヲ定メテ居ル場合ニ於テモ憲法ト同ジ効力ヲ有スル法律ヲ以テ憲法ヲ改正スルコトヲ得ルノ論ヲ生ジ来ルノデアリマス

仍テ吾人ハ更ニ我国ノ憲法ニ同ジク憲法ニ改正ノ手続ヲ定メテ居ル英国ノ憲法ニ付テ見テハ如何ナル憲法ノ改正ト雖モ之ヲ為スコトヲ得ルノ論ヲ生ジ来ルノデアリマス

英国ニ於テハ憲法ト雖モ普通ノ法律ト同ジク議会ニ於テ其ノ改正ノ議ヲ起シ之ヲ普通ノ法律ト同ジ手続ヲ以テ改正スルコトヲ得ルノデアリマス（ダイシー・ロー・オブ・ザ・コンスチチューション・ページ一四五）ト云フ様ニ憲法ト雖モ普通ノ法律ト同ジク議会ニ於テ其ノ改正ノ議ヲ起シ之ヲ普通ノ法律ト同ジ手続ヲ以テ改正スルコトヲ得ルノ論ヲ生ジ来ルノデアリマス

即チ憲法第九十六条ノ改正ノ発議ニ付テモ同ジ
ク各国ニ於ケル憲法ノ変更ニ比シ特ニ困難ナル
地位ヲ占メ彼ノ米国ノ如キハ最高ノ権力ヲ以テ
国会ノ決議ヲ経タル憲法ヲ改メントスル者ニ対
シ之ヲ擁護スルノ義務ヲ負ヒ居レリ

是ヲ以テ我国ノ憲法ハ国会ノ決議ニ対シ
テハ之ヲ改ムルノ権ナキモノト謂ハサルヘカラス
故ニ若シ国会カ同意ノ下ニ改正ヲ試ミントスル
限リニ於テハ憲法ハ主権者ノ意思ノ如何ニ拘ラ
ス絶対ニ之ヲ改ムルノ途ナキモノト謂ハサルヘ
カラス然ルニ国会ハ主権者ニ対シ国会ハ最高
ノ権力ヲ有スルモノナリト主張シ又モヤ主権ハ
国会ニ在リト論ヲ進メ来ラントスルモノナリ主権ハ
国体ニ関スル問題ニシテ若シ主権カ

国会ヲ作リシ当時ニ於テ論ゼラレ又ハ之ヲ
最高ノ意思ト認メ各主権者ノ主権論ナリシヲ
論ズル迄モ無ク我国ニ於テ主権ノ所在ニ関シ
之ヲ論ゼラレシ事ナキ事実ニ徴シ
又者ト雖モ主権ハ我国ニ於テ国会ノ如キ
ニ在リト論ズル事ヲ出来ル筈ナシ
今日ノ憲法ノ観念ヲ以テ
ラン

憲法ハ法律ノ上ニアリトスル形式的ノ
意味ニ於テ形式的ニ若クハ実質的ニ憲法ト
リトスルコトハ其ノ国ノ歴史ニ依リ種々
於テハ憲法ヲ形式的ノ特別ノ効力ヲ認メサル国ニ
於テハ憲法ト雖モ法律ヲ以テ改メ得ルモノトスル
ハ

新ニ法律ヲ設ケ又ハ既ニ施行シ居ル法律ヲ改廃スルノ必要アルトキハ内閣ハ其ノ草案ヲ作リ之ヲ議会ノ協賛ニ付スヘシ

前項ノ法律ハ憲法ニ違フヲ得ス

憲法論者ハ曰ク憲法ハ国ノ最高法規ニシテ国民ノ権利義務ニ関スル事項ハ悉ク之ヲ規定シ以テ国民ノ安寧幸福ヲ保障スルヲ目的トスルモノナリト然ルニ我憲法ハ此点ニ於テ甚タ不完全ナリ即チ憲法ニ違フヲ得ス又ハ憲法ニ違反スルノ法律ヲ設ケ又ハ既ニ施行シ居ル法律ヲ改廃スルノ必要アルトキハ内閣ハ其ノ草案ヲ作リ之ヲ議会ノ協賛ニ付スヘシト規定シ

請又対表意ス所アルヲ示ス之又全ク主権ノ問題ニ
ルニ依リ何ノ政府ト雖モ憲法論ノ国務大臣カ憲法ニ違反シタル行為
ニ対シテ責任ヲ有スヘキヲ主張シ得ヘキ規定ヲ為セリ而シテ国会ノ憲法違反
ニアラサルヤ何人ニ向テ責ノ有ルカヲ問ハサルヘカラス之ヲ
ノミカ掲ケタルニアラス問ハサルヘカラス不公平ノ甚キモノニシテ所謂
家モ驚キ且ツ主権ノ在ル所ヲ暗ニ国会ニアリトナスカ故ナリ
憲法ニ国会ニ対シテ憲法違反ノ責ヲ負フ国務大臣ヲ弾劾スル
ヲ得ル天皇ノ責ヲ代ツテ国会ニ対シ憲法違反ノ責ヲ負フ
ノ解釈ヲ憲法ニ於テ明文ヲ以テ国務大臣ノ憲法ニ違フ
ルヲ得サルニアラス国会ノ意思ヲ国会ニ於テ憲法上ノ権能ヲ以テ
サルヲ得ス国会ノ行為ニ憲法違反ナリ若シ主権ノ所在ニ於テ
大臣ノ憲法違反ノ行為ニ対シテ責ヲ負フヘキヤ

故ニ憲法ニ於テ主権ノ所在ヲ明ニスルハ憲法ノ解釈ニ重大ナル関係ヲ有スルヲ以テ
我政体ノ解釈カ同ニシテ且ツ欧州大陸ノ諸国ニ於テ
欧羅巴ノ憲法学ニ於テ特ニ言及セラルヽ所ナリ
ノ規定ヲ有セサル日本ニ於テ誰カ又ハ何カ主権ヲ有スルカヲ
今ヤ我制定憲法ニ於テ主権ハ国民ニ在リト明言シ
国会ハ最高ノ機関ニシテ憲法ニ於テ厳重ナル制裁ヲ設ケサルヲ以テ
憲法ノ命スル所ニ従ヒ国会ノ意思ヲ実行スヘキモノナリ
ルモノナリ国会ハ人民ニ対シテ其ノ責ヲ負フヘキヤ勿論ナリ
法違反ナリト非難スルハ国会ハ主権者ニ対シ責任ヲ負フヘキヤ
ノ如キ主権者ニ対シ責任ヲ負フヘキヤ

裁判官ノ命令ヲ行フニ当リ無効ナル命令ヲ行ヒタル者ハ法律ニ定メタル処分ニ従フノ外行為ノ責任ヲ負ハス但シ其命令ヲ無効ナリト認メタルニ付相当ナル理由アルトキハ此限ニ在ラス

第二編　統治ノ主体

第一章　総論

憲法ハ統治ノ原則ヲ定メタル法則ナリ、統治セラルヘキ者ハ何ナルカ、統治ヲ行フ機関ハ何ナルカ、如何ニシテ統治セラルヘキカ、統治ノ主体、統治ノ客体、之ヲ定メタル法ハ、統治ノ基礎ヲ為スモノカ其法ナリ、故ニ其法ハ統治ノ権ヲ及統治権ノ作用ヲ規定シ其憲法ヲ実際ニ行フニ我輩ハ此講義ヲ以テ憲法ノ全ク同一ノ教科書ヲ述フルニ非ス、各国ニ於テモ此ノ如キ類法ハ必ス其国ノ歴史ニ基ク独リ仏国ノミニ非ス英国ノ如キ成文ヲ採用セサルモノナリ我輩ハ特ニ我憲法ヲ説明スルヲ以テ此ノ題ヲ為シタルナリ然レ唯ニ我国体ニ好ンテ異説ヲ為シ我国体ニ反スル所アリトテ為スヲ得サル所ナリ仏国ノ如キ

故ニ憲共趣意ヲ説明スル為メ国ノ法律ヲ説明スル為メ
ニハ如何ナル憲法上ノ主義ヲ採用シタルヤヲ説明スル
故ニ統治ノ権ヲ説明スルニハ主権ノ所在ヲ説明スル
ヲ要ス而シテ国ノ元首ノ権限ヲ定ムル為メ権ヲ立法
司法行政ニ分ツ各機関ノ組立ヲ定ムル為メ権限論ヲ
述ブルノ順序ヲ取ルニ於テハ猶ホ可ナリ故ニ統治ノ
主義ヲ説明スルニ当リ国家ノ主権ヲ説明スルハ当然
ノ順序ニシテ之ヲ説明スルニ当リ主権ノ所在ヲ説明
スルニ付テハ独リ国法学者ノ観念ノミナラス一般ノ
人民ノ観念ヲ参酌スルヲ要ス而シテ国体政体ノ観念
ノ異ナルニ従ヒ主権ノ所在ヲ異ニスルヲ以テ之ヲ
説明スルニハ何レノ国ニ於テモ主権ノ所在ヲ説明
スルヲ要ス此ノ如クナレハ国体ノ説明ヲ以テ主権
ノ所在ヲ見出サルヲ得ス此ノ故ニ国体ノ説明ヲ以
テ統治ノ主義ヲ説明スルノ順序ヲ取ルヲ至当トス
然ルニ本案ニ於テハ「第一章天皇」ノ次ニ「第二章
臣民」ヲ置キ臣民ノ権利義務ヲ規定シ「第三章帝国
議会」ヲ置キ帝国議会ノ組織権限ヲ規定シ「第四章
国務大臣及枢密顧問」ヲ置キ国務大臣ノ責任ヲ規定
シ「第五章司法」ヲ置キ裁判所ノ構成権限ヲ規定シ
「第六章会計」ヲ置キ会計ノ監督ヲ規定シ「第七章
補則」ヲ置キ憲法ノ改正ヲ規定シ而シテ最後ニ「第
八章附則」ヲ置キ憲法ノ実施ヲ規定シ殆ント憲法ノ
全体ヲ通シテ統治ノ主義ヲ説明スルノ痕跡ヲ見出ス
能ハス此ノ如キハ実ニ憲法ノ体裁ヲ得サルモノト
謂ハサルヲ得ス

第三国会ト云ヘル如キ説明ヲ以テ統治ノ主体ト権
其ノ意ノ在ル所ヲ知ルニ苦シマサルヲ得ス統治ノ主体ト権
トノ対峙ノ地位ヨリシテ各ノ機関ヲ説明スルニ当リ
観念ヲ異ニスルヲ以テ君主モ国会モ共ニ統治ノ主体
ナリト見做スヘキモノナリト雖モ君主国ニ於テハ
国会ニ相当ノ権限ヲ与ヘテ相対峙スルモノナルヲ以テ君主国
会ヲ別所ニ掲ケテ之ヲ説明スルヲ便トス君主国ニ於テハ
Parlament ヲ国家ノ機関ト見做シ君主ヲ国家ノ機関ト
見做スヘキヲ以テ国会ヲ国家ノ機関ノ一トシテ説明スルヲ
ヨリ穏当トス君主国会ヲ判所ニ於テ説明スルニ当リ
ニ当リテハ君主ヲ統治ノ主体トシテ説明スルヲ穏当トス
ヨリ成ルヘキ者ノ如キ観念ヲ以テ国会ヲ説明スルヲ
ヨリ政府ヲ以テ統治ノ主体トシテ説明スルヲ穏当トス
故ニ教科書ノ如キ教授法ニ於テモ君主ヲ統治ノ主体
トシテ説明スルヲ以テ三ノ篇ニ分チ第一篇ニ於テ統
治ノ主体ト機関トヲ論シ第二篇ニ於テ国会ヲ論シ偶然其ノ次第ヲ変ジ
タルカ如キ憲法ノ主義ヲ説明スルニ当リ国会ヲ
故ニ統治ノ権ヲ説明スルニハ主権ノ所在ヲ説明スル
司法行政ニ分ツ各機関ノ組立ヲ定ムル為メ権限論ヲ
独リ国法学ノ趣意ニ於テハ猶ホ可ナリ故ニ統治ノ主義ヲ同シク説明
于大ニ之ニ対スル説ノ主体ト権
ヲ説明スルニ当リ国法学者ノ観念ノ異ナルニ従ヒ
物ヲ説明スルニハ何レノ国ニ於テモ主権ノ所在ヲ説明スル
権限ノ説明ヲ止ムルヲ見出サルヲ得ス此ノ故ニ国体ノ説明ヲ以
述ヘ先ツ

ヲ生ズルニ至ルヘシ而シテ國家ノ主權ト云フ觀念ハ異ナル根柢ヨリ發生シタルモノニシテ之ヲ要スルニ國家ノ主體ト云フ觀念ハ國家ヲ以テ大權ヲ有スル團合ヲ基礎トシ國家ノ權力ハ其團合ノ外ニ超越シテ之ヲ支配スルモノト觀ス之ニ反シ國民ノ主權ト云フ觀念ハ國家ノ權力ハ國民ノ團合ヨリ發生シ國家ハ其團合ノ内ニ在リテ之ヲ支配スルモノト觀スルニ在リ此ノ如ク國家ノ主體ニ關スル觀念ハ全ク相反スルモノアリ我憲法ハ何レノ觀念ヲ採用シタルヤ之ヲ憲法ノ條文ニ徵スルニ第一條ニ曰ク大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス第四條ニ曰ク天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ第五條ニ曰ク天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フ第十一條ニ曰ク天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス第十二條ニ曰ク天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム第十三條ニ曰ク天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス第十四條ニ曰ク天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス第十五條ニ曰ク天皇ハ爵位勳章及其ノ他ノ榮典ヲ授與ス第十六條ニ曰ク天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス第十七條ニ曰ク天皇ハ攝政ヲ置ク攝政ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ第七十三條ニ曰ク將來此ノ憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アル時ハ勅命ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ此ノ場合ニ於テハ兩議院ハ各〻其ノ總員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非サレハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス第七十六條ニ曰ク法律勅令其ノ他國ノ權利義務ニ關係スル法律ハ總テ從前ノ例ニ依リ效力ヲ有ス歲入歲出ニ關スル現行ノ法律命令ハ總テ從前ノ例ニ依リ之ヲ施行ス此ノ數條ヲ以テ觀スルニ我憲法ハ國家ノ主權ハ天皇ニ在リトノ觀念ヲ採用シタルモノニシテ國民ノ主權ニ在リトノ觀念ヲ採用シタルモノニアラス而シテ我憲法ハ國家ノ主權ハ天皇ニ在リトノ觀念ヲ採用シタルモノナルヲ以テ我國ノ主體ハ天皇ニシテ國民ハ天皇ノ統治權ニ服從スル客體ナリト云フ觀念ヲ有スルモノナリ

我國ノ主權ハ天皇ニ在リトノ觀念ハ我國ノ歷史ニ徵スルモ明カナリ我國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治シ給フト云フ觀念ヲ有スルモノニシテ天皇ハ國家ノ主體ニシテ國民ハ天皇ノ統治權ニ服從スル客體ナリト云フ觀念ヲ有スルモノナリ

我國ノ主權ハ天皇ニ在リトノ觀念ハ我國ノ歷史ニ徵スルモ明カナリ我國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治シ給フト云フ觀念ヲ有スルモノニシテ天皇ハ國家ノ主體ニシテ國民ハ天皇ノ統治權ニ服從スル客體ナリト云フ觀念ヲ有スルモノナリ

我國ノ主權ハ天皇ニ在リトノ觀念ハ我國ノ歷史ニ徵スルモ明カナリ我國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治シ給フト云フ觀念ヲ有スルモノニシテ天皇ハ國家ノ主體ニシテ國民ハ天皇ノ統治權ニ服從スル客體ナリト云フ觀念ヲ有スルモノナリ

我國ノ主權ハ天皇ニ在リトノ觀念ハ我國ノ歷史ニ徵スルモ明カナリ我國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治シ給フト云フ觀念ヲ有スルモノニシテ天皇ハ國家ノ主體ニシテ國民ハ天皇ノ統治權ニ服從スル客體ナリト云フ觀念ヲ有スルモノナリ

唯独り諸邦聯合ニ於テ此説ヲ主張スル者アリト雖モ其実ハ聯邦ノ名ヲ仮リ以テ独逸帝国ノ主権ヲ維持セント欲スルニ外ナラス

又タ聯邦ノ政府ハ各邦ノ政府ニ対シ其ノ権力ヲ行フヘキモノニシテ各邦ノ人民ニ対シ直接ニ其ノ権力ヲ行フヘキモノニアラス

況ヤ我憲法第四十一条ニシテ天皇ハ帝国ノ統治権ノ総攬者ニシテ統治権ノ全部ニ就テ之ヲ行フト云ヒ統治権ノ一部分ヲ行フト云ハサルヲ以テ之ヲ見ルモ憲法第四条ノ如キ文字ニヨリテハ帝国ノ法律ヲ以テ統治権ノ行使ヲ制限シ得ヘキ余地ハ毫モ存セ

ノ自分ヨリモ弱ク又ハ劣ル者ニ対シテ権力ヲ行ヒ或ハ特定ノ手段ヲ以テ
一方ガ権力者ニ一方ガ服従者ニ非ル自分ト差異ナク絶対
的ニ一方ガ権力者ニ一方ガ服従者ニ非ル自分ト異ナルニテ
権力者ガ服従者ニ働キ懲リノ手段ヲ以テ強迫シ主
体トハ即チ統治ヲ行ヒ之ニ対シテ権力者ニ非ル地位ヲ有スルモノニ
客体トハ並ニ服従者ニ非ル地位ヲ有スルモノヲ謂ヒ別ニ法理
的ニ見ル時ハ一ノ公法ノ観念ニシテ必ラズ国家団体ニ於ケル権力ノ行使ヲ意味スルニ非ズ
統治ノ権力ノ行使ト称スルモ到底
憲法ガ統治ノ主権ト云ヒ憲法ガ行政ノ主体ト云フ今我ノ
如ク公法ノ観念ヲ基礎トスル権力ノ行使ト私法ノ観念ヲ基礎トスル権利又ハ権利行為ヲ
明ニ場合ニ権力ト云ヒ権利ト云ヒ絶テ相反スル意義ヲ有スルモノニ非ズ

場合ニ於テハ権力ト雖モ権利ト同シク公法ト私法トノ性質ヲ有スルモノニ非ズ別サルヘカラス権力ヲ行使スル
ニ当リ権力ヲ行使スル者ハ公法ノ性質ヲ有スルモ権利ヲ行使スル者ハ総テ平等ニシテ自分ト
対等ノ地位ニ立ツ人ヲ相手トスルヲ以テ私法上ニ於テハ皆平
等ノ人トノ間ニ起ル所ノ権力ト権利トヲ区別スルヲ得ヘシ権力者ハ権力ヲ行使シ
得ル場合ニ於テ権力ヲ行使スルヲ得ヘキモ権利者ハ権利ヲ行使スルヲ得ルト
得サルトハ全ク自由ニシテ権利ヲ行使セサルモ毫モ義務ニ違反スルコトナシ
統治ノ権力ハ普通ノ者ニ非ル特別ノ地位ニ在ル者ニ属スルヲ以テ
一般普通ノ者ニ非ル現ニ我国ニ於テハ天皇陛下ノ統治権ヲ
モ一ノ権利ト我学者ノ中ニモ往々所ヲ見ル所ナルモ天皇陛下ノ統治権ハ
決シテ私見ニ非ルコトハ勿論ニシテ権力ヲ行ヒ得ル者ハ実ニ多数ノ法律学者ノ是認
スル所ナルヲ以テ茲ニ公法ノ観念ヲ説明スルニ当リ権力ヲ行使スル者ハ公法ノ観念ヲ基礎トシ
テ権力ヲ行使スルモノニシテ権利ヲ行使スル者ハ私法ノ観念ヲ基礎トシテ権利ヲ行使スルモノ
ナリト解釈スルヲ以テ

後盾然ルニテ公法ノ観念ヲ論ズルニ於テハ公法ノ義ヲ基礎的ニ解釈スルヲ得ズ又国家ト個人トノ関係ヲ論ズルニ当リテモ権利ノ観念ヲ以テ之ヲ律スルノ不可ナルヲ知ルベシ従テ公法上ノ法律ニ於ケル国権ノ如キハ之ヲ権力ノ観念ヨリ説明スルヲ以テ最モ適当ナリトス

公法ノ観念ヲ権利義務ノ観念ヨリ説明スルヲ以テ最モ適当ナリトスルノ理由ハ公法上ノ法律ニ於ケル国権ノ如キハ之ヲ権力ノ観念ヨリ説明スルヲ以テ最モ適当ナリトスルノ理由ハ公法ノ目的ハ公益ヲ保護スルニ在リテ個人ノ利益ヲ保護スルニ在ラザルヲ以テ公法ニ関スル法律ニ於テハ個人ニ対シテハ権利ヲ与ヘザルヲ通例トスルニ因ルモノニシテ公法ニ於ケル国権ノ如キハ之ヲ権力ノ観念ヨリ説明スルヲ以テ最モ適当ナリトスルノ理由ハ公法ノ目的ハ公益ヲ保護スルニ在リテ個人ノ利益ヲ保護スルニ在ラザルヲ以テ公法ニ関スル法律ニ於テハ個人ニ対シテハ権利ヲ与ヘザルヲ通例トスルニ因ルモノニシテ公法ニ於ケル国権ノ如キハ之ヲ権力ノ観念ヨリ説明スルヲ以テ最モ適当ナリトスルノ理由ハ公法ノ目的ハ公益ヲ保護スルニ在リテ個人ノ利益ヲ保護スルニ在ラザルヲ以テ公法ニ関スル法律ニ於テハ個人ニ対シテハ権利ヲ与ヘザルヲ通例トスルニ因ルモノニシテ公法ニ於ケル国権ノ如キハ之ヲ権力ノ観念ヨリ説明スルヲ以テ最モ適当ナリトス

権利ノ観念ヲ以テ説明スルヲ得ザル故ニ其発達セル国家ニ於テハ国権ノ行使ハ之ヲ権力ノ行使トシテ統治ノ意義ヲ解セラルヽニ至レリ従テ社会ノ進歩ニ従ヒ国権ノ如キ純然タル権力ノ作用ニ於テモ権力ノ背後ニ社会ノ輿論ノ存スルヲ認メ権力ノ行使ニ当リテハ社会ノ輿論ニ適合スルヲ要スルニ至レリ

長権ハ家長ガ家族ニ対シテ有スル権力ニシテ封建ノ世ニハ地主ト小作人トノ関係モ権力服従ノ一種ナリシガ今日ニ於テハ公法ニ於ケル権力ノ観念ヲ以テ説明スルヲ適当トスルニ至レリ

進歩セル国家ニ於テハ最モ社会ノ輿論ニ適合スルヲ要スルヲ以テ最モ適当ナリトス

主権ノ主義ヲ実行セラレ人ト人トノ間ニハ権力ヲ認メズ権利義務アリテ権力服従ノ関係アルノミナリ権利者ハ請求ヲ命令ヲ義務者ハ服従ヲ命令ヲ其

問之権利ト義務トヲ有スルノミニ
唯主権ニ対スル服従ナリト絶対的ノ権力ノ有様ニ違スルヲ
カ如キ国家的ノ理想ナリ深シ社会的現象ニ足ラス之ヲ変化セ
尚社会的事実ノ或部分ニハ人ト人トノ間ニ権力ノ違物カ存在スル
故ニ其支配ノ時代ノ国家ニ於テ会ニ純粋権
カノ行使ノミヲ国家主権ノ行使ト解釈スルヲ以テ是ト
統治ノ方法ニ於カ権力ヲ原ト契約ノ如キ
例ニ社会的ノ権力ヲ原ト契約ノ如キ
さん国家思想ト全ク反対ノ思想ニ基ク現今純粋
ヲ原カ生ミ出シタル当時ノ如キハ今ヤ全ク
世授ケル子弟カ其教育ヲ受ケル
人又ハ教師等ノ命令ニ服従シテ親得ヲ得ルノ
かゝる場合ニハ服従者ノ自由ノ意思ヲ全ク
服従者ノ意思ヲ以テ之ヲ得サル
例ハ世授ノ教師又ハ家ノ主人カ生徒又ハ
ケ或ルコヲ為シ又ハ為サヽルコヲ命スルニ於テ
モ生徒又ハ雇人カ其世授ケ又ハ其雇傭ヲ原ヲ徒ニ
従ヲ拒ムヲ得ス教師又ハ主人ノ命令ヲ
ハ就テハ見ル国家ノ強制権ヲ
又ハ被雇人カ服従セスヲ欲セス却テ

家ヲ去ル時ノ教師又ハ主人ノ指力ヲ及ス能ハサル事ニ付テ指害ヲ賠償スヘキ義務ヲ負フヘキ者ニ対シテ我身ヲ指ス権利ヲ有スル者ニ対シテハ其命令ヲ指ス及ヒ雖モ其命令ノ違法ナルヤ否ヤヲ審査スルノ権利ヲ有スルモノニアラス故ニ指ス者ハ其命令ノ適法ナルヤ否ヤヲ審査スルノ義務ヲ負フヘキ

時ノ悪弊ヲ矯メント論ズル其弊限リ無キ論ヲ為スヿ
能ハズ（七）如キ権力用体ノ存在スル此ノ如ク国ノ国権ヲ以テ臣民
ノ権ヲ抑ヘ又ハ程度ノ差アルヤ研究スル所ナリ
異ナレドモ臣民ノ絶対的無限ノ者ナリト断論
セリ又討論者ハ之ヲ駁シ臣民ノ権ハ絶対的ナリト
ハ決シテ云ハズ研究スベキ問題ナリト云ヘリ
暗記ノ指ハ何ナル者ナルカヲ研究スベキ場合ニシテ應用
スベキモノナリ時ト場合トニ応ジテ種々ノ論ヲ為スヿ
者ノ如シ前提ノ論ハ又前提ノ上ニ論ヲ為シ
後ヲ終ヘテ然ル後ニ両者ヲ比較シ可ナル可カラザル
ヲ論ズベキ指ニ絶対的ナリト云ヘル前提ヲ
ハ論ズベキ問題ニアラズ

無条件ノ服従者ナリト論ズルヿ
近来ノ国家主義ノ国家ト論ズル者ハ国家ヲ
変ゼンガ為ニ現今ノ国家ヲ暗記セヨト
カ為ニ態ト暗記ノ二部ヲ拵ヘタルモノニシテ
トスルガ如キハ全ク無理ナリ
ハ国家ノ権力ヲ絶対ノモノトシテ
タルモノニシテ
トセントスルガ如キ指カヲ絶対ノ指ト
今日ノ臣民ハ各人事実トシテ
下ノ権力ヲ絶対ノ権力ト
日本ノ近来ノ憲法ノ
ヲ臣民ノ人権ヲ
何ヲ臣民ノ如何ヲ

ハ之ヲ服従ノ制度ナリト雖モ行ハル時代ハ強者ト附属
スル弱者ハ固ヨリ全ク之ヲ厭ハサルナリ此服従ノ約ハ
得度ナル約ナリ得度トハ権力ヲ得ルヲ云フ権力ノ有ル者ハ為メニ強キ者ノ為メニ強キ権力ヲ行フヲ故ニ得
度ナル約ナリ故ニ得度約ハ権力ヲ得ル規定ニシテ此
等権力ヲ得ルノ差別ナカリシナリ程度ノ差ナカリシナリ
サレトモ之ニ反シ近世革命ナリ立国ハ大革命
ナリ

第二章 皇位

第一節 皇位ノ意義

大日本帝国ハ世世一系ノ天皇之ヲ統治ス

帝国ヲ統治スル権力ノ存スル所ヲ主権者トシテ帝国ハ主体トシテ
公皇位ヲ以テ主権ノ存スル所トス故ニ独裁ノ主体ト
力ノ皇位ニ依リテ定マリテ此ノ如キ憲法若クハ法律ノ規定ヲ俟タス
公皇位ヲ以テ我国家ノ成立ノ所ニシテ国家ノ法律ニ依リ
ヲ斯ノ如ク定メタルハ我憲法ノ基礎ニ属スルヲ以テ
重要ナル統治ノ大権ニ関スル事項ニシテ我憲法ノ改正
ニ依ルニアラサレハ之ヲ変更スルヲ得ス

皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ継承ス
皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ継承ス
皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ継承ス

実ニ憲法制定ノ際ニ於テ宣言シタル統治権ノ所在ヲ変更スルノ改正ヲ我憲法ニ於テ変更スルヲ得ス性質ノ者ニ非ス又憲法ニ国体ノ変更ヲ認メサルノ規定アリトスルモ統治権ノ所在ヲ変更スルヲ得ス若シ之ヲ変更スルノ法律ハ固ヨリ無効ニシテ国家自身ヲ永遠ニ不滅ナリト信スルヲ以テ法律ハ国家ノ永遠不滅ノ存在ヲ予想シ国家ノ永遠ヲ観念スルノ結果ニ外ナラス

又憲法ハ国家ノ生存発展ノ為ニ必要ナル統治権ノ変更ヲ認メサルノ趣旨ナリトスルモ之ハ単ニ憲法ノ法理論トシテ大革命ハ何時モ我革命ノ法理ヲ以テ断言シ得ラルヘキニ非ス

必ス違憲ノ行為ナリト断言シ得ラルヘキカ如何ト疑ハシキ場合ヲ想定スルモ革命ハ何時モ道徳上所謂大義名分ヲ基礎トシテ発生スルモノニシテ法律論ノ如キハ全ク之ヲ無視シテ発生スルモノナルヲ以テ革命ノ成功ニ依リ国利民福ヲ増進シ国家ヲ永遠ニ維持スルノ実ヲ挙ケ得ルニ於テハ革命ハ国家ノ為ニ必要ナル行動ナリト認メラルヘキハ勿論ナリ

又憲法ハ国家ノ存在ヲ予想シ国家ノ永遠ヲ観念スルノ結果ニ外ナラス

国会ハ之ヲ廃止スルヲ得サルノ外ナシト雖モ実ニ変更ノ如キハ同意ヲ与ヘサルヲ得ヘシト言フヲ以テ統治権ノ所在ハ寧ロ天皇ニ在リト言フヲ以テ統治権ノ所在ヲ変更スルヲ得ヘシ

ナル所ナリ然ラハ則チ法律ハ国家ノ存在ト同時ニ之ヲ発生シ国家ト共ニ之ヲ消滅スルモノト謂ハサルヘカラス
サレハ法律ハ国家ノ意思ヲ表示スルノ方法ナリ
法律ハ国家ノ意思ヲ発表スルノ形式ナリ国家ヲ離レテ法律ノ存在ヲ想像スルハ国家ヲ離レテ国家ノ存在ヲ想像スルト同一ノ謬想ニシテ
ルカトキハ問題ハ甚タ簡単ニシテ直ニ之ヲ解釈スルヲ得ヘシ
ソレ社会ノ実況ニ照ラシテ見ルニ国家ノ意思ヲ発表スルノ機関ニハ種々アリ
実法制定ニ当リテハ議会ノ協賛ヲ経ルヲ要スルモ
ニ及ンテハ政府ノ専断ニ委スルヲ常トス
サレハ君主人民トノ分合ニ関セス憲法制定ノ前ニ於テモ君主カ国家ヲ左右スルノ勢力ヲ有スルヤ明カナリ憲法ヲ以テ君権ヲ制限スルヤ否ヤハ君主ノ意思ニ存スルヲ以テ憲法ハ君主ノ命令ニ依リテ成立スルモノト謂ハサルヘカラス
然ルニ我国ニ於テハ憲法制定ノ前ニ於テ君主カ主権者ナリシヤ否ヤハ大ニ疑ヲ容ルヘキ問題ナリ

入カ権利ヲ有スルヤ否ヤヲ解釈スルニ其人カ人間ナルヤ否ヤヲ以テ理論ヲ以テ見ルヘキニ非ス
利ノ主体ナルヤ否ヤハ法律ノ問題ナリ之ヲ定メテ自然人ノ権
ノ問題ニシテ法理ノ問題ニ非ス主権者ノ命令ヲ定ムルハ
主権者トハ誰ソヤト云フ問題ニ対シテハ学者ノ説区々ニシテ
説アリ或ハ君主ニシテ主権ヲ有スルモノアリ或ハ国家ニシテ
又ナリトスルアリ吾人ハ国家ニ主権アリトスル所ノ学説ヲ信スル所ナリ
大権ハ国家ノ威力ニシテ新国家ニハ国内ノ全キニ
大権ハ命令ニ非ス命令ニ非ス
ナリ而シテ主権者ハ政府ナリ憲法ニ掲ケタル君主ノ
ノ国ニ在テハ憲法ニ掲ケタル君主ノ

是法ヲ破ル近儀矣ヨリ甚シキハナシ
今ここアリ
大統領カ皇帝ニ位シ村子孫ヲ推薦スルカ人民ヲ奴隷ノ
ごとク意ノ赴クヘカラサル行為ヲ非ト法律ヲ以テ論ス
今日ニ於テハ之ヲ違法トスルモ之ヲ違法トスルニ
法律ノ範囲ノ所在ヲ愛度スル力ナキヲ明ニスルナリ又ヒ
リ生ス
皇位ハ統治ノ主体ヨリ主権ヲ皇位ハ合体シテ本在スルカ天皇カ
統治権ヲ有スルトキハ人カ主体ノ部ノモ
ノヲ法律ノ範囲ニ於テ統治スルニ非サルナリ又ヒ主権
ヲ有スルトキハ人カ法理上君主ハ主権
ヲ有スルトキハ人カ人格ヲ有スルトキハ又ヒ
ハ其ノ人格ヲ有スルトキハ人カ人格ヲ有スルトキハ又ヒ
トキハ君主ハ人格ヲ有スルトキハ又ヒ人格者ヲ
又ヒ人ハ夫ヲ主権ノ目的物トハ為スコトヲ得ス人ハ人格者ヲ
唯文官ノ形容ヲ過キスシテ法理上ハ君主ハ主権
ハ其ノ妻ヲ主権ヲ有スルトキハ又ヒ人ハ人格者ヲ有スルトキハ又ヒ
部ノ力ヲ法律ノ範囲ニ於テ君主ノ統治権ヲ有スルトキハ外
國家ヲ主権ヲ有スルトキハ同人ハ人格ヲ有スルトキハ又ヒ
背ク國家ノ主権ヲ有スルトキハ我國体ニ於テハ法理上君主ト
我国ノ観念ヲ以テ――――ヲ云ハサルナリ
汝ハ人格ヲ有スルヤ否ヤ
上ノ意義ニ異ナル法律上ノ人格ヲ有スルヤ否ヤ
ナリヤヲ云フヘシ
ニナル生ス意ノ如シ

権力ハ之ヲ思ノ行使ナリ之ヲ思ノ行使ナリト為ス
後説権ハ別ニ之ヲ為サヽルヲ行使ナリト見ル国アリ日本
ニテハ後説ニ

参考ノタメ欧州ノ国体ニ於テ甚タ著カ種々ナル見解アルヲ
ミヨ元ヨリ其最モ普通ナル者ハ所謂代表説ナリ君主ハ主権ノ本
体ニ非ス主権ハ代表スルモノナリトナス国会ハ国体ト主権ア
テ其国体ハ君主ニアリテ代表セラルヽ主権ハ国家ニ在リト説ア
類似セル権力行使ノ説アリ主権ハ国家ニ在リト君主ト君ヒ
主ハ唯国権ヲ行使スルノミ国家用体ハ主権ヲ有スルモ
ヒ五権ヲ行使スルニ過ヽサル君主ハ主権ヲ有セサルモ
有スト為スナリ代表説及行使説ニ対シテ同一権ノ見解ア
仏国ノ学説ニ説明シタル所ナリ彼ノ説ヲ君主ハ統治ス

(Monarch 又ハ Sovereign セヨトイフ)其ハ主トシテ君主ハ主権
ノ本体ヲ成ス所ノ行使ヲ力ヲ有スルヲイフナリ之ヲ前ノ行使説ト又対シテ主権ハ
君主ニアリ然ト君主ハ之ヲ行使セス之ヲ行使スル
等機関ナリ君主ハ始モ主座ノ位ニアルカ
又独リ之ヲ為ス故ニ君主論ハ君主
主体トセスナリ前ニ示シタル説ハ君主ハ主権者ナリヤ否ヤトイフ問題ナリ
英国又ハ独逸人ノ思想ニテハ暗ニ君主ハ主権者ナリトイフヲ認メツヽ
彼等ノ間題ニシテ所ハ主権ノ全部ヲ有スルカ一部ヲ有スルカニ
アルニ非ルヲ以テ彼等数ノ見ル所ハ君主ハ主権ノ一部分ヲ有シ他ノ部分ハ
之ヲ国会ト分ツトセス又ハ人民ト分ツトセリ而シテ君主ハ唯主権者
タルニ止リ独ハ主権者ニアラス国民カ皆独ハ主権者タルニ非ス又君主ト国民トヲ各主権ノ
或部分ヲ有シテ主体タリ故ニ君主ノ権ヲ是認制定ヨリテ其一部分カ

人民ニ譲ラントスルトキハ又ハ之ヲ
リテ國ノ行政ノ権力ヲ君主ニ譲渡
ト為サヽル権ノ一部ヲ有テモノトス
ハ君主ト官吏トヲ区別セス君主ハ其
官吏ナリヤ判官ハ公ノ自ラ権利
ナリ君主ト雖モ所トハ其ヲシテ國ノ権
利ヲ程度ノ異ナルニ従ヒ説明スル
Rechtslehre (Jellinek) ヤ
説ハ前ニ述ヘタル主ノ意ニ基キ法律
明スルカラス又証
ヲ要スルニ國ノ國体ニ政事ニ
ヲ要セス官吏ニ
國体ヲ論スヘキ理由モナキナリ

國体ヲ論スヘキ理由モナキナリ
前ニ於テ欧州ノ國法論上君位ノ位地ヲ就テ種々ノ説
國体ハ各國ノ歴史ヲ本ノ故ニヨリテ彼ヲ論ズルトキハ
ニヨリ法理論トシテ可ナル能ハサル
ヲ置カヽヲ必要トス所謂代表説ノ根拠ハ國ヲ以テ其
ヲ以テ國ヲ代表スル人ノ組合
國体ナリトスル主義ニ基キ君主ヲ以テ国家ノ
君主ヲ以テ其外ニ
スルモノトス故ニ君主ハ国家ニ対シテ国体ヲ代表スル権限ヲ有
ケル君主ノ地位ハ大統領ノ地位ト君主国ニ於
共和国ト君主国トノ区別ハ余明ニ
ケル君主ノ論理上又ニモ異ナルヲナシ故ニ此ノ説ヲ理論ト認ムル迄ニハ
ケル君主ノ論理上又ニモ異ナルヲナシ故ニ此ノ説ヲ理論ト認ムル迄ニハ
至ラス之ヲ論結ヲ取ルヲ憚ラス英國ノ如キ欧国ノ国法論者
國体ハ君主政トヲ共和政トヲ名称ノミニ依リテ決スヘキ者ニアラス

[illegible] 仏国ノ法学者 [illegible] 主権国ノ君主ノ如キ大統領ナリ共和国ノ大統領ハ有期ノ君主ナリ（ルイ・ブラン）君主国ニテモ共和国ニテモ主権ハ人民ニアリ君主又ハ大統領ハ人民ノ委託ニ依リ法律ノ範囲内ニテ政治ヲ行フ者ナリトイフ意味ナリ

入前国ノ学者ニ至ルマデ、欧洲諸国ニ於テ君主国ト共和国トヲ区別スルニ国体ト云フ語ヲ用ヒ、国民ニ主権アリトイフヲ以テ共和国ノ特色トシ君主ニ主権アリ人民ハ君主ノ服従スヘキモノトイフヲ以テ君主国ノ特色トス（ブルンチュリ）人ノ権力ト服従トノ成立ハ多数ノ人ト人トノ権力ト服従トニ外ナラス故ニ君主国ニ於テモ君主ハ人民ノ服従ヲ歴史的ノ偶然ノ結果トシテ国体ノ役人タルヘキモノカ

（Bernhard）

歳月ヲ経ルニ従ヒ自己ノ権利トシテ国務ヲ処スルノ義務アリトイフ普通ノ官吏ノ権利トシテ自己ノ意思ヲ国家ニ強ユルノ権利アリトイフ君主ノ最高官吏ハ自己ノ権利トシテ君主ノ職務ヲ行フヤウナル誤訳ハ難ト職務上ノ権利ヲ有スルヤ否ヤハ迫ル所ノ人（ルナン）国家ノ為メニ地位ヲ棄テタル地位ニ就クヤウナル議論モ皆ナ所謂仏ノ大家ト同ク共和国ノ首長タル地位ニ就クヤ自己ノ権利トシテ認ムルヤウナルモノナシ故ニ人民カ撰挙ニテモ世襲ニテモ君主国ニテハ特定ノ人ニ其役目ニ就クヤ私ノ権利トシテ認メタリ故ニ君主ヲ君主トスルヤウナル保ニ大統領ト君主ニ差異ナルヤ否ヤハ職ニ就クヤ否ヤノ法理ニ外ナラス（ブルンチュリ）欧州ノ現今ノ普通ノ観念ハ

我國ノ國体ヲ変更シ君主制度ノ観念ト全ク異ナル共和國ノ
特質ト見做シテ此権ヲ主張スル者ヲ考ヘ候ヘハ
Beaulaury [illegible] Rank of area. [illegible] 職トモ云ヒ
[illegible] 権ヲ行フニ当リ自己ノ権利ニシテ其職務
ヲ有スルトノ意義ヲ表ハシ皇位ノ議論ト Bourgeois 論ト
皇位ハ何ナルモノヲヲ論ズルヨリ経済上ニ於ケル
カヲ論ズルヨリ経済上ニ於ケル何ナル人カ皇位ヲ就カ
ン為ニ Bourgeois ヲ社会カ作リタル職業ヲ其ノ人ノ義務ト云フ職業ト
アリトキハ義務ヲ
日本國法ニ皇位ノ性質
天皇ハ自己ノ権力トシテ統治権ヲ
行使スルニアラス他人ノ委托ヲ受ケ其ノ
委托ノ趣旨ニ従ヒ他人ノ権力
カヲ行フヿハ此前ニ述ヘタル我憲法ノ権力行使ノ説ト異ラス仏國
風ノ解釈ト異ナル所ナリ彼ノ主権者ハ國民ニシテ國民ハ自
ラヘヲ行使スル能ハス故ニ君主ヲシテ之ヲ行使セシムル者ニシテ國民
ノ為メ國ノ主権ヲ國民ノ委托ニヨリテ行使スル者ニシテ自己固有ノ
権力ヲ行フニ非ス故ニ其ノ元ヲ著シキ例ハ古ノ羅馬ノ Caesar
皇帝ノ如シ又近クハ仏國ノ Napoleon 并三世カ皇帝ト称セシ
ニ雖モ之ヲ仏國ニテモ決シテ然ラス國民其ノ事ニ関係シテ主
権ハ國民ニアリトスルヲ以テ此ノ人ノ皇
帝ヲ戴キ普通ノ君主ヨリモ」層大ナル権力ヲ認ム民主主義ノ
米國ニ権力甚ダ大ナルハ之カ為メニ所ナリ
論ヲ俟テ権ノ有セサルヿ明カナリ故ニ
國民ニ帰スルヿ宣言シテ仏國ヲ民ノ名ニ於テ

國ノ主權ヲ總攬シ之ヲ行フ天皇帝ハ祢ヲ公國國民ノ
皇帝ト祢スルヲ
[illegible]
Bund
即チ皇帝ハ主權ヲ有シ此ヲ行使シ祢ヲ以テ
從事ノ機關ヲ設ケ獨乙國ノ皇帝ト祢シ獨乙帝國ノ主權
祢スルヲ以テ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ノ國法ニ基ケル國ヲ認メサルニ非ス然レトモ法律ニ
リテ國ヲ認メタルニ過キス其ノ主トシテ之ヲ作ルカ
テ君主ヲ法ノ外ニ置カントスルニ故ニ君主カ憲法ニ
ヌニ基ケル國ヲ認メサルニ非ス然レトモ法律ニ
又ニ基ケル國ヲ認メサルニ非ス然レトモ法律ニ
ヒリ明白ナル法文ナルニ拘ハラス之ヲ無視スル
等者ハ萬世制定ノ憲則ヲ蹂躙スル
法論歟ヲ以テ其論ヲ
依ラサル可ラス
憲法ハ君主ノ權力ヲ制限
カアリトスルノ法文ト両立セス君主ハ無限ノ力ヲ有ス

ル所ノ憲法ヲ發布シテ立憲ノ制度ヲ設ケ君主ノ權力ヲ制限
法ニ由リテ制限セラルル故ニ主權ハ全ク君主ニ在リト
ヲ以テ君主ハ憲法ノ外ニ超然トシテ之ヲ作ルカ
ヲ以テ君主ハ憲法ノ外ニ超然トシテ之ヲ作ルカ
テ君主ハ憲法ノ外ニ超然トシテ之ヲ作ルカ
ヲ以

又国ノ自己ノ主権ヲ国ノ内外ニ対シテ行フ場合ハ従来ノ通リ北部合衆国ト雖モ南何人モ許サヽル権ノ制限ヲ受ケラルヽハサルヲ以テ建テラルヽ憲法ハ勿論北部合衆国ノ為メニモ其主権ノ制限ヲ定メタルモノニシテ主権カ制限セラルヽト云フコトハ自ラ矛盾ヲ免レサル所法ヲ設ケテ主権ヲ規定スルハ国ヲ統治スルノ為メニ外ナラス然ルニ何カ故ニ憲法ハ国ヲ統治スル為メニ設ケラレタルモノニシテ主権ヲ制限スルモノニアラスト論断スルヲ得ンヤ又事実ニ於テモ国ヲ統治スル為メニ設ケラレタル憲法ニシテ主権ヲ制限スルヤ否ヤハ之ヲ実行シ得ルト否トニ依リテ決スヘキモノニシテ憲法ノ制限ヲ受ケサル主権ハ之ヲ有名無実ノ主権ト謂ハサルヲ得ス故ニ憲法ニ於テ主権ヲ制限スルヤ否ヤハ憲法ノ制定ヲ以テ決スヘキモノニアラスシテ憲法ノ制定後ニ於テ主権カ憲法ノ制限ヲ受ケラルヽヤ否ヤニ依リテ決スヘキモノナリト云フヘシ

事ヲ宣言セラレタリ憲法ノ実施ニ至リテハ之ヲ憲法ニ定メラレタル改正ノ手続ニ依リ国ノ主権ヲ以テ改正セラルヽ力如キハ之ヲ認メサルヘカラサルヘシ

法理論ヨリ言ヘハ主権カ制定ヲ受ケタル憲法ニ依リテ制限セラルヽヤ否ヤハ主権ノ自ラ決スヘキ問題ニシテ憲法ノ関スル所ニアラス故ニ国権ノ発動タル法律ヲ以テ憲法ノ制限ヲ免レントスルカ如キ法律ハ固ヨリ無効ナルヘキハ勿論ナリト雖モ憲法ニ於テ主権ヲ制限スルノ力ヲ有スルヤ否ヤハ

ル君主ノ特別ナル見做シテ憲法ノ說明ヲナセリ其ノ論旨ハ主權者タリトスルトキハ立法ノ全權ヲ有スルヲ以テ之ヲ制限スルノ法律ヲ作ルコトヲ得ス故ニ君主ハ神聖ニシテ犯スヘカラス其ノ意味ハ憲法上ノ主權ハ君主ニアリトスルニ在ルヲ以テ君主ハ憲法ニ依リテ立法ノ權ヲ制限セラルヽモノニアラス故ニ君主ハ神聖ナリト云フニ在リ

主權者ナルトキハ國家ノ意思ヲ決スルノ權ヲ有スルヲ以テ之ヲ制限スルノ法律ヲ作ルコトヲ得ス故ニ君主ハ神聖ニシテ犯スヘカラス其ノ意味ハ憲法上ノ主權ハ君主ニアリトスルニ在ルヲ以テ君主ハ憲法ニ依リテ立法ノ權ヲ制限セラルヽモノニアラス故ニ君主ハ神聖ナリト云フニ在リ

入ハ國權ノ下ニアル國ノ機關ニシテ國家ノ意思ヲ決スルノ

君主ハ元ヨリ不法ヲ行ヒ得ヘキ筈ニ非ラス而シテ其責任ヲ負ハサルヘカラス故ニ君主ハ神聖ナリトセハ不法ノ行為ヲナシ得ル意味ヲ含ムモノニシテ欧洲諸国ノ君主ノ国法上ニ於テ君主ハ神聖ナリトスルハ其精神全ク之ニ反スルナリ

元来我国法ノ容認スル国民的ノ要求ノ主義ヲ抹殺スルニハ君主ノ命令ヲ以テスルノ外ナシ而シテ君主ノ命令ヲ以テ此主義ヲ抹殺スルハ国民的国民的国家ノ法ト為ルモノニシテ君主ノ意思ニ出ツルモノニアラス事ハ我国法ノ容認スル君主ノ法ノ制限ニ於テ君主ハ法上ノ責任ヲ負ハサルヘカラス

君主ハ法ノ制限ニ於テ君主ニ非ラサルヘカラス

ニアルヲ以テ国民的ノ君主ト称スルヲ得ヘシ

或ハ君主ト人民トノ上ニ位シ三ノ権力ヲ

ノ未タ君主ノ命令ヲ以テ人種ノ問ノ特質ヲ抹殺シ君主ノ神聖ナル又法律ノ上ニアリトスルニハ政府ノ制定シ来リテ初メテ行ハルヘキ主義ヲ意ノ儘ニ抹殺シ得ヘキ筈ニシテ而シテ君主ハ元ヨリ不法ヲ行ヒ得ヘキ筈ニ非ラス而シテ君主ハ神聖ナリトセハ不法ノ行為ヲナシ得ル意味ヲ含ムモノニシテ欧洲諸国ノ君主ノ国法上ニ於テ君主ハ神聖ナリトスルハ其精神全ク之ニ反スルナリ

元来我国法ノ容認スル国民的ノ要求ノ主義ヲ抹殺スルニハ君主ノ命令ヲ以テスルノ外ナシ而シテ君主ノ命令ヲ以テ此主義ヲ抹殺スルハ国民的国民的国家ノ法ト為ルモノニシテ君主ノ意思ニ出ツルモノニアラス事ハ我国法ノ容認スル君主ノ法ノ制限ニ於テ君主ハ法上ノ責任ヲ負ハサルヘカラス

君主ハ法ノ制限ニ於テ君主ニ非ラサルヘカラス

ニアルヲ以テ国民的ノ君主ト称スルヲ得ヘシ

或ハ君主ト人民トノ上ニ位シ三ノ権力ヲ

テ其神聖ナルコトヲ云フニ元首ノ為ス所ハ不法ナリトスルノ観念ハ君主ヲ以テ神聖ナル者ヲ誣ルノ甚シキモノニシテ我国ニ入レテ論ズルニ足ラサル学説ナリ故ニ君主ハ神聖ナリトスルコトハ元首ノ為ス所ハ刑法ヲ以テ之ヲ律スルヲ得ス又民事ノ訴訟ニ於テモ之ヲ免除スルヲ得サル所ナリ

君主ハ神聖ナリトスルコトハ元首ノ為ス所ハ不法ナリトスルノ観念ヨリ見レハ唯君主ニ対シテ国権ヲ施行スルヲ得ルノミニテ他ノ一切ノ人民ニ対シテハ決シテ之ヲ施行スルヲ得サルモノナリ故ニ君主ハ神聖ナリトスルコトハ元首ノ為ス所ハ刑法ヲ以テ之ヲ律スルヲ得ス又民事ノ訴訟ニ於テモ之ヲ免除スルヲ得サル所ナリ

君主ハ神聖ナリトスルコトハ元首ノ為ス所ハ不法ナリトスルノ観念ヨリ見レハ唯君主ニ対シテ国権ヲ施行スルヲ得ルノミニテ他ノ一切ノ人民ニ対シテハ決シテ之ヲ施行スルヲ得サル所

高ノ地位ヲ含ムヤ否ヤハ故ラニ別ニ考フルノ要ナキモノト信ス
其初ヨリ特権アルモノト並ヘル人民トノ差異ヲ認メ
独先儕来遵守シ来リタル同体ノ観念ヲ以テ見ルトキハ君主ト雖モ
未タ一臣民ノ全ク服従セサル特権ヲ有スルカ如キ
感覚ヲ起スヘキ理由ナキヲ以テ即チ前度ニ述ヘタル
ノ如ク君主ヲ廃セントスル人民ノ主義ヲ実行セントスルニハ
其君主ヲ廃セサルヲ得ス然レトモ人民ニシテ君主ヲ廃セント
スルノ目的ヲ以テ一旦ニモセヨ君主ヲ廃シタル以上ハ
其人ヲ去ラサルヘカラサル所ナリ
君主ヲ廃セサルヘカラサルノ理由ハ人民ニ特権ヲ与フルノ
ト大ニ異ナルヲ以テナリ
ト及ハサル所アリキ

第三章　皇位継承

皇位継承ハ君主ノ位ヲ承ケ継クヲ云フナリ、皇位ハ君主其人ノ
ト同体ヲ為シ今皇ヲ廃シテ新ニ君主ヲ建ルノ事実ハ
特定ノ自然人カ死亡シタル時ニ如何ナル人カ其地位ヲ継承スルカ
ヲ問題トスルヨリ寧ロ皇位継承法ノ定ムル所ニ
前聞ニ示スカ如ク憲法ニ於テハ天皇即チ
皇位ナリ併シ事実トシテ何人カ天皇タルヘキヤヲ
別ニ皇室典範ノ規定スル所ナリ此ニ
議スヘキハ皇室典範ノ憲法ノ明文ノ問題ニ非ス
シテ皇室典範ニ於テハ皇位継承ノ順序
ヲ定メテハ皇位継承ノ順序中
ニ含マレサル現今ノ皇位継承ノ

特別ノ法典ニ於テ規定セラルヽ故ニ其精神ヲ説明スルヤ
大日本帝国ノ皇位ハ萬世一系ノ皇統ヲ継承シ」トアルハ国ヲ統ベラルヽ皇統ト我皇室
ノ祖先ノ血統ヲ示サンガ為ニ」トアリテ皇位ト我国民ノ祖先トノ関係ヲ明ニセサルニヨリ
外ニ於テ定メラレタル国体ノ基礎ヲ堅固ナラシムル精神ヲ発揮スルニ足ラス仍テ茲ニ
家的組織ヲ為シタルノ種ノ原因ヲ探究シ国民ト皇室トノ関係ヲ明ニシ以テ
祖先ノ恩徳ニ報ヒ奉ルノ義務アルヲ知ラシメンガ為ニ」トアリテ即チ国民ト皇室トノ
ミナラス国ヲ成シ民族ヲ異ニスル人種ノ混合シタルモノニアラサルヲ明ニシ我尤モ
ヲ以テ成シタル国民ノ祖先ヲ記録シ又国民ノ祖先ヲ崇拝シ以テ成シタル所ノ此
人種ノ祖先ヲ崇拝スルノ義務アルヲ明ニシ皇位ニ服従スルヲ以テ
皇室ノ祖先ノ国民ノ祖先ニ対スル立場ニ立チ血統ヲ同ウシテ同ノ家族ナルヲ故ニ
皇室ニ武力ヲ以テ服従シタルニ非ラサルヲ故ニ服従スト云フ故ニ非ス又一種ノ
宗教ヲ以テ人心ヲ繋キタルカ故ニ皇室ヲ仰ク者ニ非ス又国民ノ上ニ
君臨スル力ヲ以テ皇室ヲ仰カシメタルニ非ス又皇室ハ法律歴史ノ結果ニ過ス
所ノ家族制度ノ延長ニ外ナラス国民ハ皇室ヲ以テ家ヲ統ヘ子孫ヲ父
母ヲ崇敬スルノ念ヲ以テ仰ク者ニ非ス又祖先ノ恩徳ニ報スル為ニ子孫ヲ以テ
皇室ヲ仰ク者ニ非ス又皇室ハ即チ家ノ先祖ノ子孫ニ対シテ
保護ノ力ヲ行フ者ニ非ス又国民ハ皇室ヲ以テ家ヲ統ヘ子孫ヲ慈シミ
同ク成ルヘク人民ノ共同ノ利益ヲ増進セントスル観念ヲ以テ皇室ヲ推シ尊ムノ此ノ
如キ関係ハ法律歴史ノ結果ニ過ス又国民ハ皇室ヲ以テ家ヲ統ヘ子孫ヲ慈シミ
共同ノ祖先ノ恩徳ヲ忘レサル為ニ祖先ヲ崇拝スルノ念ヲ以テ仰ク者ニ非ス又
皇室ハ国民ヲ以テ子孫ノ如ク愛撫シ給フ故ニ国民ハ皇室ヲ以テ家ヲ統ヘ子孫ヲ慈シミ
ナカラモ其精神ノ外ニ国体ノ基礎ヲ置キ皇位ノ主権ノ存スル所ヲ明ニシ
ソコニ確ムルニ至ラサレハ国体ノ基礎ヲ定メタルモノト云フヲ得ス
ト雖モ憲法ノ規定ヲ待テ始メテ皇位ノ継承法ヲ自然
ニ定メタルモノナリ例ヘハ皇位継承ヲ改
メテ何人ニテモ統治ノ権ヲ有スル君主ト仰ク
ヤウニナツテモ武力アルモノヲ以テ君主ト仰ク
ヤウニナツテモ

つ、其ハ利里ヲ可ナリトハ勿論ナレトモ我国ハ万世一系ノ天子ヲ戴キ国ノ基礎ハ固ヨリ盤石ノ如クニシテ更ニ動揺スルノ恐レナキヲ以テ君主ノ位ニ在ル者ハ祖先ノ遺訓ヲ確守シ憲法ヲ設ケ国民ノ安寧ヲ図リ之ヲ子孫ニ伝ヘテ万世ニ渡リ其統治権ヲ施行スルニ当リテハ国民ノ選挙ニ依リ国会ノ協賛ヲ経ルヲ要スルモノトス故ニ歴代ノ君主ハ皆国民ノ輔翼ヲ重ンシ国会ヲ尊重シテ其ノ権利ヲ保護シ以テ君民一体ノ美ヲ全クセラレタリ又ハ我皇位継承ノ順序ハ別ニ皇室典範ノ規定アリ而シテ皇位継承ノ順位ハ男子ヲ以テ女子ニ先ツノ通理ナリトスルノ外ハ総テ長幼ノ序ニ依リ皇族ニ在リテハ同等内ニ在リテハ尊親ヲ以テ卑親ニ先ツノ通義トス而シテ皇位継承ノ時ニ当リテハ国会ノ議ヲ経ルヲ要スルモノトス

我皇位継承ノ性質ハ以上ノ如クニシテ

其國ハ何ノ王統カ皇統ヲ絶ツヤ
カラス故ニ如何ナル血統カ皇位ニ即クカトイフニ
皇室典範ノ規定ニ所ニテ國法ノ綱紀問題ニ
定ムヘキヲ又改正スヘキヤヲ
サヘ皇子相続ノ順位ノ規定ニ訴フル
アルヲ以テ之ヲ準用シテ
ニキ事柄ニ關シ適用ノ例トシテ其精神ヲ示ス最モ著
ルキハ如何ニシテ之ヲ決定セリ例ニ於テ若シモ其王室ノ血統カ絶ツ
徒ニ之ヲ説キ去リ或國ノ皇統ヲ
ハ或ル特定ノ人ニ授ケントスルカ如キ時ニ
典範ノ規定ナシ皇室ノ
自己ノ存在カ基礎ヲ皇統ニ
テ帝國存在ヲ帝國存ニテ皇統
コテ我憲法ノ皇室典範ハ制定
ハ帝國ハ如何ニシテ之ヲ
七九

従カ徒ニ之ヲ説キ去リ或國ノ皇位ヲ
サリ然ルニ其規定ヲ以テハ之ヲ
其範圍ノ性質ノ異ナル所ヲ明ニスル
我典範ノ皇室内部ノ規定ニシテ
ニ即ヲ以テ足ルトシテ現在ノ皇族中何人ヲ皇位
疑ハ國法ノ規定ヲ以テ如何ナル血統カ主權者タルヘキカヲ問
若ハ皇祖ノ血統ノ絶ユルニ至リタル場合ヲ想像シテ
ハ之ヲ理論上甚タ
ニ於テ帝國ハ甚タ
ニ於テ帝國ハ帝國ヲ
自己ノ存在カ基礎ヲ皇統ニ
テ帝國存在ヲ帝國存ニテ皇統
コテ我憲法ノ皇室典範ハ制定
ハ帝國ハ如何ニシテ之ヲ
七九

定スル所ニ依リ之ヲ決定スル所ニ依リ之ヲ決定スル所ニ依リ之ヲ決

英ニテハ一般ニ男子ニ限ル
日本ニテ皇位ノ継ク順序モ憲法ニモ皇室典範ニモ規定セサルモ
ノハ日本ノ国体ニテハ当然ノ事ト認メラレタルニ因ルモノニテ
ハ唯数多ノ皇族中如何ナル人カ其皇位ニ即クカヲ定ムル定メ
リ日本国土ト人民トハ何人カ皇位ニ即クモ之ヲ変更スルコトナ
法律上日本帝国ニ於ケル主上ト共ニ興亡
廃スルモノナリ

皇位ハ皇子ノ皇子ヲ継承スヘキ男子ノ無キトキハ皇子ノ皇女ニ
ヨリテ伝フルノ所ノ皇位ハ皇統ト見做サス皇統ハ男系
子孫ヨリ伝フルヲ原則トス

資格ヲ有スル皇子ノ内ニ於テ皇位継承ノ順序ハ長子相続ノ法ニ
子相続ノ法ニ依ルヘキヲ規定ス

皇位ハ皇子ノ皇子ヲ継承スヘキ男子ノ無キトキハ皇子ノ皇女ニ
皇統尽キテ然ル後支系ニ入リ皇族ノ近親ノ皇族ニ傳フルナリ

皇位継承ノ順序ハ立憲君治ノ主義ト手長相続ノ主義トヲ合セ
用フルナリ立憲ノ下ニ在リテハ国ノ元首タルノ故ヲ以テ
男子ニ限リ年長ナル者ヲ先キニスルハ普通ノ主義ニ基ク
ト雖モ其ノ順序ノ如キハ皇室典範ノ明文ヲ以テ之ヲ定ムルニ
非サレハ決シテ異説ノ生スルノ虞ナキニアラス依テ理論ノ説明ヲ要セス
諸君ハ其ノ説明ヲ待タスシテ
合セテ手長相続ノ主義ヲ補充セラレタルモノナルコトヲ
諸君ノ既ニ産ヲ挙ケテ後ニ在リテハ
ルニ論スル皇位ト即チ皇室ノ財産ノ如キハ唯儀式ノ上ニ止ルヘキ
トナス主義ヲ以テ皇位ノ継承ヲ

ニ生指ノ受授セラルヽヲ義トセンヨリ寧ロ父ヨリ子ニ伝ヘラルヽ天皇ノ御位ニ付キ皇統ノ一体ヲ保チ給フ神勅ヲ以テ万世一系ノ天皇ヲ戴ク我カ国体ニ於テハ皇位ノ継承ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇嗣之ニ即位シ践祚ノ大礼ヲ挙ケ即位ノ礼ヲ行ヒ大嘗祭ヲ行フヲ以テ慣例トス

皇位ハ皇統ニ属スル男系ノ男子之ヲ継承ス

皇室典範ノ規定ハ同時ニ国ノ法則ニシテ皇室ノ家法ニ非ス

皇室典範ノ制定ハ憲法ノ制定ト同時ニ行ハレタルモノニシテ憲法ト相俟テ我国体ノ基本ヲ定メタルモノナリ

皇室典範ハ皇室ノ家法ニシテ国ノ法則ニアラス

皇室典範ノ規定ハ国法上ノ効力ヲ有スルモノニアラス

皇室典範ノ制定ハ憲法ノ制定ト同時ニ行ハレタルモノニシテ憲法ト相俟テ我国体ノ基本ヲ定メタルモノナリ

皇室典範ハ皇室ノ家法ニシテ国ノ法則ニアラス

皇室典範ノ規定ハ国法上ノ効力ヲ有スルモノニアラス

説明スヘシ

Bの一般的ノ君主ハ君主権ノ法源ニシテ当然位ト即クヘキ皇族ノ範囲ヲ定メ皇室内部ノ規定ヲ以テ皇位ノ継承ヲ規定シ皇位ト即キ皇族ノ行フヘキ儀式ヲ定ムルヲ以テ皇室典範ノ制定ト称スルモノニシテ皇室典範ハ皇室ノ家法ト称スルモノニ外ナラス

相ニ依リ生ミ給ヒシ子又旧独乙帝国ノ皇代ニ在リテ絶エタル同
主ノ家ヲ立テ妃ヲ娶リ婚姻シ給ヒシ子モ亦同
様ニ依リ生レ給ヒシ子ハ皆父ノ姓ヲ取リテ生レ給ヒシ子ハ同キ姓
姻ニ依リ又自分達ニテ分家ヲ立テ給ヒシ子ハ皆姓ノ姻相ニ依リ生レ
者ニ非サル故ニ日本ノ如キハ庶子嫡子トヒ別アルカ如ク國ニ
テハ嫡出子ニ非サレハ皇位ヲ継承スルヿヲ得ス又日本ニハ
此ノ如キ二ツノ主義ヲ設ケ故ニ右ノ皇位継承ノ主義ヲ調ヘル必要ヲ
生ス

摂政ノ制度

摂政ハ天皇ニ代リテ国事ヲ行フモノナリ摂政ノ制度ハ従来我歴史ニ
見ル所ニシテ憲法ニテ新ニ設ケタル我現行ノ憲法ノ制度ハ大ニ其精神ヲ異ニセル先ノ治革上ノ区別ヲ
示シ後ニ現行憲法ノ解釈ニ移ラントスルニ当リ我古キ歴史ニ摂政トイフコトニ関スル係ヲ一応ハ
説明スルヲ便トス依テ摂政ノ制度ニ就テ先ツ沿革上ノ区別ヲ
述ヘントス

摂政ハ天皇カ幼少ナル間又ハ久シキ間海外ニ在ル場合又ハ天皇カ自ラ大政ヲ執ルヿ能ハサル
ヿアルニ当リテ置カルヽモノニシテ其ノ時ニ存在セサル間ハ大政ヲ執ルヿ能ハス、古天皇カ自ラ大政ヲ執ルヿ能ハサル
ヿアル場合又ハ皇太子若クハ皇太子ノ代リテ政ヲ行フヿアリ又皇太子並ニ皇太子ノ代リテ政ヲ行フヿアル
事実上ニアリテ並ニ当時ニ制度トシテ摂政ノ位ヲ設ケ並ニ位ニ就キシヿアリ
トキニハ皇后カ摂政トシテ摂政ノ位ヲ設ケ並ニ位ニ就キシヿアリ
摂政ノ位ニ即カントスルニハ詔勅ヲ以テスルヲ例トセリ
サレハ
左ニ述ヘントスル制度ハ摂政ノ位ノ制度ニ関スル歴史ヲ見テ知ル
ヿヲ得ヘシ

ゆきの歴史には天皇が幼少、ナル時又ハ其他故障アル時ニ皇族又ハ
臣等ニ命シテ国政ヲ処理セシメラレタルハ如ク多クハ臣下ノ者カ摂政ノ
職ニ当リタリ摂関政治ノ盛ンナリシ藤原氏カ如キ専ラ摂政ノ権力ヲ行シテ歴
史ニ現ハレタリ此等ノ摂政ハ摂政ノ観念ニ基キテ摂政ノ職ヲ行シタル
大政大臣ニ任ゼラレタルカ如シ(摂政ハ皇族ヲ以テスルモ多クハ臣下ノ高官職ト見做シタルカ故ニ皇族ヲ
以テスルモ勅令ヲ以テ皇位継承ノ順序ヲ無視シ得ルノ点ニ於テハ臣下ノ場合ト異ラス皇位ノ継承ニ関スル権限ノ最モ強キ国務大
臣ナルカ如シ)
以テ武家ノ政ニアリテハ摂政又ハ関白ノ名ヲ無実ニシテ益々ニ一ノ
譽ノ官職ノ如クナリ(摂政ハ天皇ノ権力ヲ行ヒテモ外ニ又多数ノ
位ヲ授与シテ天皇ノ権力ヲ分ケ与ヒテモ尚ホ天皇ノ権力ヲ全ウスルモノニアラス虚器アル尊高ノ官職
タリシカ如シ)之ヲ維新ニ於テ此制度ノ有様ヲ採リ

現今ノ帝国憲法ニ於テ認メラレタル所ノ摂政ノ制度ハ全ク精神ヲ
異ニスル点ニ於テハ寧ロ全ク新シキ事実ヲ定メラレタルモノニシテ
此ノ制度ハ全ク異ナリ摂政官職ノ制度ニ基キ摂政官職
ハ君主ノ臣下ニ対スル一部分ノ責任ヲ行ハシムルモノ
リ摂政ハ君主ノ任命ニ基キ天皇ノ一部分ノ責任ヲ行フ点ニ於テ天皇
大権全体ヲ行フ天皇ノ位ト密接ノ関係ヲ有シテ事実上皇位ノ一部分ヲ
ヲ大権ヲ行ヒ、摂政ハ統治者ノ地位ニアリ
事実上君主ノ大政ヲ自ラ執ルニ於テ君主ノ権力ヲ行ヒ法理上ノ効力ニ於テハ
摂政ノ行為ハ天皇ノ行為ナリ天皇ト摂政トハ同体ヲ為シ以テ皇位ノ
権力ヲ行フ
此摂政ノ性質ヨリシテ皇位ヲ即ク者ハ摂政ヲ置ク

きて一ハ条理ニ於テ皇職ヲ授ケル如ク聡識・英智アル人ヲ撰ヒテ選任ノ大アル人ヲ撰ヒルトキハ皇ノ子ト雖モ亦之ヲ排斥シアル所ノ天子ニ代リテ天皇ノ指ヲ行フ者ナルカ故ニ皇位継承ノ順序ニ於テ仮令幼年ニシテ其天皇ニ代ルヘキ皇太子ヲ立テ摂政ヲ置クヘキ場合ニ非サレハ摂政ノ任ニ当ルヲ得ス又天皇ニ故障アルトキハ皇太子ヲシテ摂政ノ任ニ当ラシムヘキハ勿論ナレトモ之ニ関シ別ニ明文ノ制度ハ現今ニモアラス且ツ此ノ如キ摂政ハ皇位継承ノ順序ニ於ケル皇太子ニ対シテハ天皇ノ大権ヲ以テ大体ノ精神ノ異ナル所ヲ示シ置クヘキ事ト信ス

憲法及典範ハ摂政ニハテ左ノ三箇条ヲ決セリ

摂政ノ憲法上ノ地位即チ皇位ト摂政トノ干係、

摂政ハ何ナル場合ニ摂政ヲ置クヘキカトキフ事、

摂政ノ為メニカトキフ事、

右ノ点ヲ明カニ説明セントス

摂政ハ天皇ノ名ニ於テ天皇ノ指ヲ行フトキハ明ニ天皇ノ名ニ於テ天皇ノ指ヲ行フ者ニシテ自己ノ権利ニ基キ自己ノ指ヲ行フトキハ固ヨリ国権ノ主体ニ非サルヲ以テ天皇ノ指ヲ行フ者ト雖モ亦国権ノ主体ニ非ス故ニ摂政ハ天皇ニ代リテ国家ノ元首タル地位ヲ有スルモノニ非ス又摂政ハ天皇ノ指ヲ行フ者ナルカ故ニ摂政カ天皇ニ対シテ負フ責任ハ天皇ノ指ヲ行フ者トシテ負フ責任ニシテ自己ノ指ヲ行フ者トシテ負フ責任ニ非ス

天皇ノ大権ヲ総テ天皇ノ補弼ノ下ニ摂政ヲシテ行ハシムルヲ以テ全部ノ施政ヲ一部分ノ行使ニ過ギサルモノトシ摂政ハ統治権ノ主体ニ非ス又天皇ノ責任ニ付テ行フ者ナリ摂政ヲ置クトキハ天皇ハ自ラ大権ヲ執リ内政ニ付テハ摂政ヲシテ天皇ノ名ニ於テ之ヲ行ハシメサルヘカラス

此説明ニ依ル時ハ摂政ノ性質ハ寧ロ天皇代理ニ近シ而シテ皇位ト同一体ナリト雖モ摂政ハ国ヲ統治スル点ニ於テハ天皇ト同一ノ地位ニ在リ摂政ヲ置キタル場合ニ於テハ天皇ハ唯名義上ノ元首タルニ過キス全体ノ政務ハ摂政ノ責任ニ於テ之ヲ行フヘキモノナルヲ以テ摂政ハ天皇ノ大権ヲ行フニ付テハ天皇ト同一ノ地位ニ在リト謂ハサルヘカラス

摂政ハ天皇ノ名ヲ以テ大権ヲ行フヘキモノナルヲ以テ摂政ハ天皇ト同一ノ地位ニ在リト謂ハサルヘカラス

内閣ニ於テ之ヲ定ムルヲ以テ摂政ノ為メニ皇室典範ノ規定ヲ設ケサルヘカラス

第十条ニ摂政ヲ置クトキハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ摂政ノ内部ノ関係ヲ定ムルヲ以テ摂政ハ天皇ニ対シテハ勿論全然ノ力ヲ以テ之ヲ為スヘキモノニ非ス

皇位ハ一ノ無形ノ法人ナルカ如シ摂政ハ其ノ機関ニ過キス

皇位ハ人ニ代ルニ若クハ並位スルノ人モ疾病其他ノ故障ニ因リ大権ヲ執ルヲ能ハサルトキニ代リテ之ヲ行フヘキ法理上ノ義務ヲ有スルカ如シ

皇位ノ国法上ノ地位ヲ表示スル為メ断絶セサル一個ノ人格ヲ国ヲ通シテ保有スルカ故ニ天皇ハ国ヲ代表シ国内部ニ於テハ唯名義上ノ元首タルニ過キス実ノ統治ハ内閣ニ於テ之ヲ為ス

摂政及皇位継承ノ順序ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ

法ノ法理ヲ論ズルニ当リテハ権
ヲ為ス足ラス別ニ特ニ説明ス
者ナキ故ヲ以テ茲ニ掲ケス
ル所以ナリ

君主ハ其ノ主権ヲ行フニ
自然人ヲ指ス所ノ地位ヲ具有スルヲ以テ
トキハ[illegible]ノ君主ヲ来成スル
欧州学説
時ハ[illegible]義ヲ以テ
ニ従フヲ宣伝スルヲ以テ
[illegible]ノ死セサルニ
[illegible]ノ死セサルニ
[illegible]ノ死セサルニ
[illegible]ノ死セサルニ

君主ト称スルモ敢テ
事実上ニ於ケル大政ヲ執ル
皇位ニ在ルニ過キス其内部ニ
君主ノ如キモノアリテ称政ト
[illegible]ノ如キ解釈ハ誤リノ甚シキ者ナリ

[illegible]同シク生死ヲ異ニスルヲ以テ然ルト
[illegible]ノ生存ヲ以テ
[illegible]ノ死ヲ以テ
[illegible]ノ死ヲ以テ
[illegible]ノ死ヲ以テ

ノ事ヲ謀ルヿヲ行フヿヲ得ス又三権分立ヲ以テ依リテ之ヲ指カス様ノ
トセサルヲ得ス
此ノ如キ説ハ根本ノ見ル所ヲ異ニスルニ因ル論ヲ俟タス
権ヲ司法権ノ別ナルヿヲ各其ノ司ドル所ヲ異ニスルヿヲ述
見ルカ故ニ摂政ハ天皇ノ代理ニ非スシテ我憲法ニ於ケル
見ルカ故ニ摂政ハ天皇ノ代理ニ非スシテ我憲法ニ於ケル
第三。如何ナル場合ニ摂政ヲ置クヘキヤヲ定メタル第十九条ハ天皇
ヲ定メタル第十七条ニ違セサルヿヲ要スルヿ勿論ナリ
又故障ニヨリ大政ヲ親フヿヲ得サル場合ニ於テモ摂政ヲ置カサル
ヿヲ得ルヿ勿論ナリ
憲法文ノ概括ニシテ其ノ意義ヲ好サニ定メサルハ又故障ノ
場合ト見テ可ナリ

天皇又自ラ大事ヲ行フヿヲ得サル故障トハ精神上肉体上総テ絶対的ノ故障ヲ意味スルヿ
字通リニ解釈スヘキ故障ノ軽重如何ヲ問ハス其ノ継続スル時間ノ
長短ニ拘ハラス意味スルモノト見ルヲ正当ト信ス而シテ摂政ヲ置クノ
論スルハ我憲法ノ文字ノ如ク置クノ国法ノ趣意ニ
意味スルニ外ナラス絶対的ノ故障ノ継続スル時間ノ長短ヲ
乃ノ問ハス絶対的ノ故障ヲ意味スルモノトシ攝政ヲ置クヘキ
降ヲ意味スルモノト解スルヲ正当トス又若シ故障ヲ
我憲法ノ文字ノ精神ニ一致セサル解釈ヲ採ルヿヲ得ス
摂政ハ天皇ヲ輔弼スル大臣ニ非ス故ニ天皇ノ代リテ天
皇ノ意思ヲ表示スルモノニ非ス天皇ヲ輔弼スルモノニ外ナラス

右ノ摂政ニ関スル下ノ精神上ニ於テモ亦実際上ニ於テモ絶対的ニ高等ヲ表示スル能力ヲ失フニ至リ摂政ノ任命ヲ見テモ設ケラレタル制度ナルヲ以テ君主ノ如何ナル政務ニ対シテモ之ヲ許可シ又ハ裁可スルノ権ヲ有シ其ノ一ノ任意ノ事ニ属スルヲ以テ我輩ハ此ノ点ニ於テ摂政ハ君主ノ絶対的故障ト看做シ其ノ間ニ於ケル君主ノ行為ニ対シテハ責任ヲ負フノ要ナキモノト信ズ

Mr. Ozaki made an explanation to the effect that the Regent was not to be considered as an absolute impediment to the Emperor, and that during the period of the Regency the Emperor was responsible for his own acts.

右ノ摂政ニ関スル説明ハ之ヲ絶対的ノ故障ト看做シ摂政ノ代理ヲ委任セラレタルモノト同ジカラサルヲ以テ摂政ハ君主ノ特別ノ委任ニヨリテ其任ニ当ルニ非ラサレハ君主ノ当然ノ権限ニ属スル事務ヲ行フ能ハサルモノナリ

Mr. Ozaki explained that the Regent was not to be considered as an absolute impediment to the Emperor, and that he was not to be considered as a substitute for the Emperor, and that he could not perform any of the duties of the Emperor unless specially authorized to do so.

皇太子又ハ其ノ人ノ代理トシテ摂政ト全ク名義異ナリ君主ノ特別ノ委任ニヨリテ依リテ摂政ハ君主ノ当然ノ権限ニ属スル事務ヲ行フ能ハサルモノナリ其ノ任ニ当ルニ非ラサレハ君主ノ当然ノ権限ニ属スル事務ヲ行フ能ハサルモノナリ

Mr. Ozaki explained that the Regent was not to be considered as an absolute impediment to the Emperor, and that he was not to be considered as a substitute for the Emperor, and that he could not perform any of the duties of the Emperor unless specially authorized to do so.

又摂政ヲ行フ実際ノ形式ニ於テモ摂政ハ君主ノ名ニ於テ自ラ法律ノ裁可ヲ与ヘ大権ヲ行使スル点ニ於テモ摂政ハ君主ノ補助ノ機関ニ過キス国法上君主ト親ウシテ責ニ任スルノ点ニ於テハ全ク同一ニシテ摂政ハ君主ノ代理人ニ非ス

ルハ非ス自ラ其位ヲ即ク能ハス摂政ヲ置クハ法定ノ事実ヲ条件トシタルモノナルカ故ニ事実ノ認定ハ絶対ニ摂政ノ決定ニ関スルヘシ

若主カ成年ナリヤ否ヤノ問題ハ通信明白ナル事実ノ問題ナルカ故ニ別ニ事実ノ審査ヲ要セス又故障アリヤ否ヤノ問題ハ精神上身体上ノ事実ノ状況ニ関スルモノニシテ之ヲ容易ニ決スル能ハス故ニ皇族会議又ハ枢密院顧問ノ議決ヲ経ルヲ要スト規定セリ此趣意ハ皇族会議若クハ枢密院顧問ノ摂政ヲ置クノ可否ヲ諮詢セラレシ際又故障アリヤ否ヤトノ事実ノ審査ヲ為ス好サヲ考ヘモ其事実存在スルヤハ摂政ノ任ニ当ルヘキ皇族会議ノ決定ニ依テ自己当然ノ権利ヲ摂政タル人ヲ摂撰スルニモ非スシテ皇位ノ心得ヲ以テ皇室典範第九条ニ掲ケタル所ノ故障アリ又ハ無キトノ決議ヲ為スニ摂政ヲ置クノ如シ国家ノ機モカセヲ摂政ニ任命シテ非スシテ之ヲ摂政ト云フ事実アルハ其瞬間ニ於テ当然ニ摂政タルヘキ式モナク摂政ヲ宣言スヘキ手続モ別ニ憲法及法律ニ規定セサル所カ即チ法理ニ適ヘル所ナリ実際ノ便宜トニハ若主カ新ニ即位ニ当リ又ハ摂政カ其任ニ当リニハ詔勅ヲ発シ又ハ宣言スルヲ内外ニ公布スルヲ以テ公ケニ若主ノ摂政タル位ニ即キ又ハ摂政タルヲ知ラシムルヲ以テ足レリトス法理上其公布ノ行ハレタル位ニ即キ又ハ摂政タ

定メサルナリ

第三、故伊藤公ヲ以テ摂政ノ任ニ当ラシムルカ如キハ明瞭精細ナル皇典ノ範ニ違戻シ其尊厳ヲ冒瀆スルノ甚シキモノニシテ断ジテ許スヘカラス

又対スルニ白耳義憲法ヲ以テスルモ亦摂政ノ設ケアルヲ認メサルヘカラス而シテ欧州ノ摂政ノ制度ハ大ニ立憲主義ノ趣旨ニ違ヒ国王ノ大権ヲ制限スルノ意味ニ於テ設ケラレタルモノニシテ我国ノ摂政ノ如キ全ク国王ノ大権ヲ委任スルノ意味ニ於テ設ケラレタルモノニアラス

摂政ハ天皇ノ大権ヲ行フ天皇ノ名ニ於テ天皇ノ権ヲ行フ天皇ノ命ヲ受ケテ天皇ノ政治ヲ補助スルモノニシテ故ニ其ノ官職ノ一ト見ルヲ得ス又天皇ノ任ニ当ラシムルカ如キハ明瞭精細ナル皇典ノ範ニ違戻シ其尊厳ヲ冒瀆スルノ甚シキモノニシテ断ジテ許スヘカラス

又対スルニ白耳義憲法ヲ以テスルモ亦摂政ノ設ケアルヲ認メサルヘカラス而シテ欧州ノ摂政ノ制度ハ大ニ立憲主義ノ趣旨ニ違ヒ国王ノ大権ヲ制限スルノ意味ニ於テ設ケラレタルモノニアラス

摂政ハ天皇ノ大権ヲ行フ天皇ノ名ニ於テ天皇ノ権ヲ行フ天皇ノ命ヲ受ケテ天皇ノ政治ヲ補助スルモノニシテ故ニ其ノ官職ノ一ト見ルヲ得ス

摂政ノ下ニ内閣ノ設ケアルヲ以テ摂政ハ全ク内閣ノ輔弼ニ依リテノミ大権ヲ行フヘキモノト為スハ我国ノ歴史ヲ無視スルモノニシテ我国ノ歴史ヲ冒瀆スルノ甚シキモノナリ

ニタルモノナラン然レ共今日ノ国法上ノ説明トシテハ之ヲ採リ可ラス
皇室ノ家長権ノ主ナルヲ以テ之ヲ論ス可キニアラス天皇ハ其ノ然ル所以ノ原因ヲ
究メ之ヲ説明スルニ当リ然ルニ摂政ハ摂政ノ主タル目的ト国ヲ
統治セシムルニアリ故ニ摂政ハ君主ノ完成ヲ目的トスル点ニ於テハ
君主ト異ナラス国会ヲ開キ又ハ内閣ヲ召集シ
議休ヲ行フ我国ノ如キハ全ク之ト異ナル
摂政ハ順序ハ皇位継承ノ順序ニ依ル本則トシテ之ヲ摂政ノ性質
上ヨリ出ル例外則チ摂政ハ統治ノ機関ニシテ天皇ニ代理シテ統治
権ヲ行フモノナルヲ故ニ若シ故障アル天皇カ前項ニ依リ摂政ニ任ゼラレタル
ニ拘ラス摂政ヲ置カサルトキハ摂政ハ其ノ任ヲ就クヘキ順序ニ在ル人摂政
ニ任ゼラレタル当然ノ順序ニ依リ摂政ヲ置クヘキモノトス Laband ノ如キ学者ハ摂政
ハ全ク皇室ノ機関ニシテ国家ノ機関ニアラスト説ケリ然レ共摂政ハ
天皇ニ代リテ統治権ヲ行フモノナルヲ故ニ若シ故障アル人摂政
ニ任ゼラレタル当然ノ順序ニ依リ摂政ヲ置クヘキモノトス Laband ノ如キ学者ハ摂政ハ
全ク皇室ノ機関ニシテ国家ノ機関ニアラスト説ケリ然レ共摂政ハ
天皇ニ代リテ統治権ヲ行フモノナルヲ故ニ若シ故障アル人摂政

アリト認ムヘキ時ノ故障ト見ルヘキヤ
一旦ニテモ半年ニテモ絶対的ノ故障アルヘキヤ
之ヲ得ス故ニ此時ハ摂政ヲ置ク人政事上当然ノコトナリト信ス
故ニ文字ニ拘ラス其精神ヲ解スルヲ可ト信ス
而シテ此故障トハ絶対ノ故障アリテ我輩ノ説ハ如
キヲ謂フモノアリ或ハ又対ノ者モアリ係ルニハ我国ニテ
引用ニテ説明スルニ付キテ数多ノ説アリ従テ学者多
欧州ニテ摂政ノ制度ニ付キ著ハ数多ノ説ヲ集メテ便リ
ニハ Laband ノ如キ著モ仲々苦心ノ論セリ
孰レモ未タ全キヲ得ス後見人ヲ付ケ
ル如キ説ハ好ク歴史的ニ考ヘルモ治革

皇位継承ノ主義ト異ナルヲ以テ又皇位ヲ継承スルヲ得ス又皇位ヲ継承スルヲ得ル人ト雖モ摂政ノ職務ヲ執ルヲ得ス

右ノ順序ニ依リ皇太子又ハ皇太孫カ摂政ニ就キ又ハ摂政ヲ継続スヘキ場合ニ於テ其人カ未タ成年ニ達セサル間ハ皇太子又ハ皇太孫ノ為ニ摂政ヲ置クヘキモノトス

皇族ニシテ摂政ニ就クヘキ順位ハ皇位継承ノ順位ニ依ル

皇位継承ノ主義ト異ナルヲ以テ又皇位ヲ継承スルヲ得ス又皇位ヲ継承スルヲ得ル人ト雖モ摂政ノ職務ヲ執ルヲ得ス

右ノ順序ニ依リ皇太子又ハ皇太孫カ摂政ニ就キ又ハ摂政ヲ継続スヘキ場合ニ於テ其人カ未タ成年ニ達セサル間ハ皇太子又ハ皇太孫ノ為ニ摂政ヲ置クヘキモノトス

皇族ニシテ摂政ニ就クヘキ順位ハ皇位継承ノ順位ニ依ル

第一、親王及王

第二、皇后

第三、皇太后

第四、太皇太后

第五、内親王及女王

右ノ順序ニ依リ皇位ニ最モ近キ人ヲ先キニシ摂政トナル而シテ親等ノ

同ニキモノヽ中ニハ皇統モ主長ノ主義ニ
合ト異ナルヲ以テ我憲法ハ摂政ヲ設ケ
ハ妹ヲ又天皇ノ大権ヲ以テ
ラルヽ精ヽニ行ハルヽ余ノ妹
政ヲ行ハルヽ我憲法ハ
皇ニテ統治ノ主体ノ
ハ特別ノ場合ヲ
ルヽ

又国家ヲ
タル者アリ然ト雖ヽ国体ノ異ナレ
ハラヽ

憲法ノ君主統治ノ主体ヲ論ス

第弐章　統治権ノ客体

第一節　統治権ノ目的物トシテノ土地

統治権ノ目的物トシテノ土地ハ如何ナル統治権ニ服従スルモノヲ意味スルヤノ問題ニ付テハ統治権ノ主体ト統治権ノ存スル所ヲ考フルノ必要アリ而シテ統治権ノ内外ニ於テ統治権力ハ何ノ所有ノ物ノ上ニ行ハルヽヤノ問題ハ我憲法ニ於テハ主権ノ絶対ニシテ無限ナルヲ以テ統治権ノ効力ハ凡ソ国ノ主権ニ対スル絶対ノ統治権ニシテ之ニ対抗スル何人ノ所有権ト雖モ絶対ニ之ヲ認メサルノ趣旨ナリト解スルヲ正当トス

土地ノ問題ニ付キテハ人民ノ所有権ハ人民ニ対スル統治権ノ効力ニ対抗スル権力ナリ従テ人民ノ所有物ハ前体物ナル国ノ土地ノ上ニ所有権行ハルヽモ対抗シ得ヘキモノナリ本ヨリ統治権ノ効力ヲ説明スルノ為メニ例ヲ示スニ過キス

要スルニ国権ト人民ノ権利トハ全ク性質ヲ異ニスル主権ノ絶対ノ力ヲ以テ人民ニ対シテ行ハルヽ権力ナリトスルヲ正当トス都合ニ依リテハ国権ノ及ヒ所ヲ国権ノ対抗ヲ招キ又ハ人民ノ権ト解スルヲ誤解シテ国権ハ国ノ強土ト国民トノ上ニ行ハルヽ権力ニ対抗スルモノナリト唯政府ト人民トノ間ニ於ケル相対的権力ニ依ル非ス又タ権力ト対抗スルモノナリト雖モ所有権ト対抗スル絶対ノ力ナキ此ノ如キ国際ニ於ケル国権ニ至リテハ国ト国トノ干係ニ於テモ明瞭トナレリ従来ノ国権ニ関スル観念ナルモノハ君主ト人トノ相対的

ノ権力ヲ信ノ観念カ主タリシヨリ近世ノ国家ノ発達ニツレ国権ハ国主又ハ臣民ノ上ニ行ハルル有形ノ権力ニ対抗スル絶対ノ力ヲ有スル君主ト臣民トノ対人的ノモノト信シ殊ニ国家ノ権力トシテハ臣民カ服従スル外ニ国家ノ権力ト特免ヲ有スルカ故ニ国内ニアル人民ハ服従スルノ外ナク人民ニ統治ノ客体トシテノ地位ノミヲ認メタリ臣民ハ素ヨリ全然国権ニ服従スルノ義務ヲ有スルモノニシテ統治ノ客体トシテハ主権ノ下ニアリテ服従スルモノナリ統治権ニ対シテモ又国内ノ団体ニ対シテモ臣民ハ絶対ニ服従スルノ義務ヲ有スルカ如ク国家ハ又臣民ニ対シテ絶対ノ権力ヲ有スルモノナリト説明スルノ学説ハ普ク知ラルル所ニシテ今ニ於テモ此ノ説ヲ信スル人ハ尚ホ多数ナリト雖モ

疑ヒナキ所ナリ知ラルヘシ惟フニ此ノ説ハ近世欧国ノ国体ハ民主主義ノモトヨリ夜ケ君主政体トシテ実ニ所謂民主国体ニシテ欧国ノ憲法ハ専ラ君主ノ権ヲ制限スル為メニ発布セラレタルモノナルヲ見レハ明カナリ故ニ人民カ統治ノ客体タルノミニシテ国家ニ対シ何等ノ権利ヲモ有セスト思ヒシハ固ヨリ誤リニシテ欧国ノ国法学ハ多数ヲ以テモ我ノ説ヲ認スルノ理由ナキヲ信スルナリ

人民ヲ以テ統治ノ客体トスルハ普ク欧国人ノ明言スル所ニシテ又学者ノ著書ニモ欧国人ハ明ニ人民ヲ被治者トシテ国家ニ対スル義務ノミヲ認メ人民ニ権利アルヲ認メサルカ如ク聞ユレトモ欧国ノ国法論ノ変遷ヲ知ル人ハ如何ニ此ノ学説ノ甚タ誤リタルヲ知ルヘシ

(Le droit subjectif est celui qui appartient à une personne comme telle, indépendamment de sa qualité de membre de l'État. Il est opposé au droit objectif, qui est l'ensemble des règles imposées par l'État à ses membres.)

又普通西人ノ権利ヲ説キテ臣民トシテノ権利トシテハ殊ニ避ケテ之ヲ説カス彼等ノ憲法ヤ臣民トシテ